

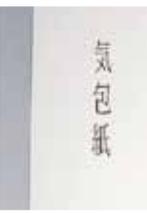
Automobile Brakes

日清紡ホールディングス株式会社

東京都中央区日本橋人形町2-31-11 〒103-8650  
Tel 03-5695-8833(代表)

■ 本報告に関するお問合せ先  
経営戦略センターCSR室IR広報グループ  
Tel 03-5695-8854  
Fax 03-5695-8878

■ インターネットからのお問合せ  
<http://www.nisshinbo.co.jp/>



Mechatronics



Electronics



Papers

Challenge

# 日清紡グループ CSR報告書 2012

In accordance with the corporate principle that companies are public entities, the Nissinbō Group aims to be an eco-company that provides optimal solutions for a low-carbon society.



Textiles

Chemicals

Real Estate

# NISSHINBO

# 日清紡グループCSRへの思い

日清紡グループは1907年の創業以来、「企業公器」と「至誠一貫」を基本理念として受け継ぎながら、事業活動を通じて社会に貢献してきました。これらの考え方は、現在のCSRの考え方と軌を一にするものであり、日清紡グループの経営の原点です。

日清紡グループは、環境・エネルギー分野を核にした事業活動を展開することにより、社会に貢献し、社会とともに継続的發展を果たしていきます。

## お読みいただくにあたって

日清紡グループでは、企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)に関わる取り組みについて広くステークホルダーの皆さまにご報告するためにCSR報告書を発行しています。

5回目の発行となる今年度は、紙面を一新することとしました。さまざまな事業を通じ社会に貢献する私たちのCSR活動の実績を、これまで以上にわかりやすく具体的に紹介していきます。また今年度より、社会の皆さまのお声の代表として第三者意見をいただくこととしました。

これを機に私たちならではのCSR活動を、より一層充実させていきます。

### 1. 報告の対象期間

2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)の活動報告を基本に、2010年度、2012年度についても一部報告しています。

### 2. 報告の対象範囲

「日清紡グループの概要」(P.2-3)については、持株会社である日清紡ホールディングス(株)と連結子会社を報告対象としています。社会性ならびに環境関連の報告事項は、右表の49社を集計対象としています。本報告書の中では、特段の記載がない場合、日清紡ホールディングス(株)を「当社」、グループ全体を「日清紡グループ」と記載しています。

### 3. 参考としたガイドラインなど

- ・環境省「環境報告書ガイドライン2007年版」
- ・環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第3版」ほか

### 4. 過去のCSR報告書

過去の報告書は下記URLよりダウンロードいただけます。

<http://www.nisshinbo.co.jp/csr/download.html>

なお、経済性報告の詳細情報については、IRサイトからダウンロードいただけます。

- ・アニュアル・レポート(日本語/英語)
- ・決算短信(日本語)
- ・第169期報告書・株主通信(日本語)
- ・有価証券報告書(日本語)

URL: <http://www.nisshinbo.co.jp/ir/index.html>

### 5. 発行日

2012年7月26日

### 6. 次回発行予定

2013年7月



## 報告対象会社(セグメント順)

## 日清紡ホールディングス(株)

## 繊維

日清紡テキスタイル(株)  
CHOYA(株)  
日清デニム(株)  
(株)ナイガイシャツ  
日清紡ヤーンダイド(株)  
(株)オーシャン・リンク  
PT.ニカワテキスタイルインダストリー  
PT.日清紡インドネシア  
(有)ブラジル日清紡  
上海蝶矢時装有限公司  
PT.ナイガイシャツインドネシア  
日清紡績(上海)有限公司

## ブレーキ

日清紡ブレーキ(株)  
日清紡オートモーティブマニュファクチャリング  
日清紡ソニアートモーティブ(株)  
セロンオートモーティブコーポレーション  
賽龍(北京)汽車部件有限公司

## 紙製品

日清紡ペーパー プロダクツ(株)  
東海製紙工業(株)  
日清紡ポスタルケミカル(株)  
大和紙工(株)  
上海日豊工業品有限公司

## 精密機器

日清紡メカトロニクス(株)  
日清紡精機広島(株)  
日清紡アルプステック(株)  
日清紡メカトロニクス(上海)有限公司  
日清紡メカトロニクス(タイランド)(株)  
台湾日清紡太陽能股份有限公司

## 化学品

日清紡ケミカル(株)  
(株)日新環境調査センター

## エレクトロニクス

日本無線(株)  
新日本無線(株)  
長野日本無線(株)  
上田日本無線(株)  
ジェイ・アール・シー特機(株)  
武蔵野電機(株)  
日本無線硝子(株)  
佐賀エレクトロニクス(株)  
NJR CORPORATION  
(株)エヌ・ジェイ・アール福岡  
THAI NJR CO., LTD.  
NJR (SINGAPORE)PTE LTD  
恩結雅(上海)貿易有限公司

## 不動産・その他

ニッシン・トーア(株)  
日清紡都市開発(株)  
岩尾(株)  
ヨーロッパ日清紡  
日清紡シンガポール(株)

## 02 日清紡グループの概要

## 04 トップメッセージ

## 06 日清紡グループのビジョンと指針

## 09 特集 日清紡グループの事業と挑戦

10 Focus 2012

11 ブレーキ事業

12 繊維事業

13 紙製品事業

14 化学品事業

15 精密機器事業

16 エレクトロニクス事業

17 新規事業・不動産事業

## 18 CSR目標と実績

## 20 CSR経営の基盤

## 24 お客さまとともに

## 26 株主さまとともに

## 27 購入先さまとともに

## 28 社員とともに

## 32 地域社会とともに

## 33 環境報告

## 49 第三者意見



日清紡グループは、社会の持続的な発展に貢献するため、さまざまな角度から挑戦を続けています。日清紡メカトロニクス(株)で試作した太陽電池モジュールをグループ会社の事業所屋根に設置し、再生可能エネルギーの活用を図っています。(写真: 島田事業所)

## 日清紡グループの事業と社会との関わり

日清紡グループは、企業理念のひとつ「環境カンパニーとして、世界の人々の快適な生活文化の向上に幅広く貢献」するために、7つの事業セグメントそれぞれにおいて、さまざまな形で社会を支えています。

### 日清紡グループの事業と社会との関わり

■ 事業内容

■ 社会との関わり



**繊維事業**

糸、織編物、不織布、衣服、産業用繊維資材、その他の繊維製品の開発、製造、加工、売買および輸出入

日清紡の繊維技術を集結した「アポロコット®」シリーズは、綿100%の肌触りとノーアイロン性を装備し節電にも貢献する環境にやさしい商品です。好評のワイシャツに続き、ハンカチ、ビジネスパンツなどにアイテムを拡大中です。



**ブレーキ事業**

自動車用ブレーキ摩擦材(ディスクパッド、ライニング)、ブレーキアセンブリーなど、ブレーキ関係製品の製造および販売

自動車の基本性能は「走る」「曲がる」「止まる」です。昨年TMD社を傘下に加え、摩擦材の世界トップメーカーとなった日清紡は、「止まる」性能で世界中の自動車社会の安全と安心を支えています。



**紙製品事業**

家庭紙製品、ファインペーパーなどの洋紙、成型加工製品、パッケージ製品、プリンター・ラベル関連製品などの製造および販売

「シャワートイレのためにつくった吸水力が2倍のトイレトイレットペーパー」は、繰り返し購入されるお客さまも多い人気商品です。ファインペーパーは、カレンダーやパンフレット、書籍など身近なところで使用されています。



**精密機器事業**

太陽電池製造装置などのメカトロニクス製品、自動車用精密加工部品、プラスチック成形品などの製造、加工および販売

原子力発電が見直される現在、再生可能エネルギーの重要性が増しています。中でも太陽光発電への期待が高まっています。日清紡は、太陽電池パネル製造装置を国内外の有力パネルメーカーへ納めています。



**化学品事業**

ウレタン、エラストマー、カーボン製品、燃料電池セパレーター、高機能化学品などの製造および販売、自動車用蓄電デバイスの開発

太陽光発電に次いで、革新的なエネルギー利用技術として燃料電池も普及に弾みがついてきました。日清紡は家庭用燃料電池の重要構成部品であるカーボンセパレーターを製造しており、圧倒的なシェアを有しています。



**エレクトロニクス事業**

船舶用電子機器、通信機器、治水・防災など社会インフラ関連の管理システム、アナログ半導体などの製造および販売

東日本大震災以降、社会の安全・安心を支える防災無線システムの役割が再認識されています。都道府県から市町村まで、規模に応じた防災情報通信システムを提供しています。



**不動産事業**

遊休地の再開発事業、宅地分譲や商業施設などへの土地・建物の賃貸など

事業構造の転換により海外へ生産拠点が移転し、その結果生まれた国内工場跡地を有効活用しています。跡地の規模を活かし、住宅地として街ごと再開発するなど、地域社会の住環境向上や活性化に貢献しています。

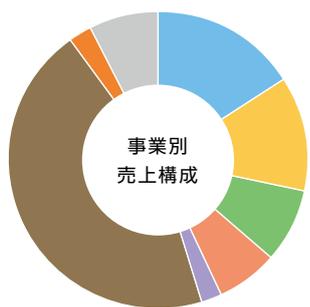
## グローバルな展開で社会に貢献する

日清紡グループは、多様な事業領域それぞれにおいてグローバル化を進めています。昨年欧州最大手のブレーキ摩擦材メーカー・TMD FRICTION GROUP S.A. (以下TMD社)を買収し、社会に対する事業を通じた貢献のフィールドは五大大陸すべてに拡大しました。

### 事業拠点

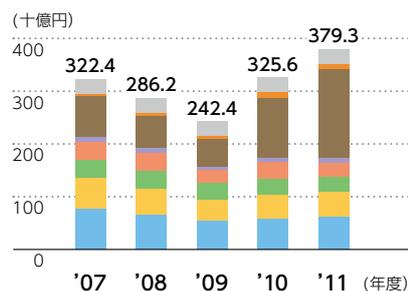


### 主要財務データ



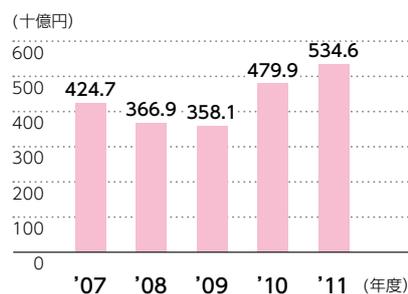
|          |       |
|----------|-------|
| 繊維       | 16.1% |
| ブレーキ     | 12.5% |
| 紙製品      | 8.0%  |
| 精密機器     | 6.6%  |
| 化学品      | 2.2%  |
| エレクトロニクス | 44.8% |
| 不動産      | 2.4%  |
| その他      | 7.4%  |

#### 売上高

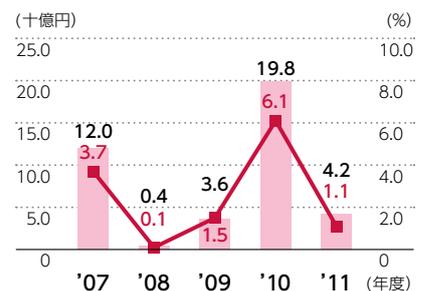


■ 繊維 ■ ブレーキ ■ 紙製品 ■ 精密機器 ■ 化学品  
■ エレクトロニクス ■ 不動産 ■ その他

#### 総資産

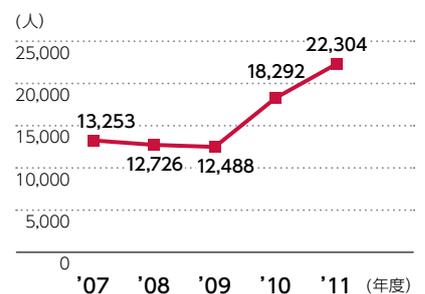


#### 営業利益／営業利益率



■ 営業利益 (左軸)  
■ 営業利益率 (右軸)

#### 従業員数



## いま、必要な企業として、 未来を創る企業として

04

日清紡ホールディングス株式会社  
CSR報告書 2012



日清紡グループは「環境カンパニー」を目指し、CO<sub>2</sub>削減など人間社会の課題解決に向け、さまざまな分野で挑戦しています。

例えば究極のエコカーと言われる燃料電池車の普及のため、独自のカーボン技術を活用して、燃料電池の重要構成部品であるセパレータなどの製品開発を進めています。一足先に需要が拡大している家庭用燃料電池には、当社のカーボンセパレータが広く使用されています。

バイオプラスチックの普及に貢献する改質剤、あるいは自動車の低燃費化のカギを握る蓄電デバイスなども私たちの手掛ける製品です。さらに食糧問題をテーマに据え、植物工場への取り組みも始めています。

## CSR報告書の発行にあたり

当社が初めてCSR報告書を発行したのは2008年、今年で5回目の発行になります。歴史は浅いのですが、CSRすなわち「企業の社会的責任」という考え方は、1907年の創立間もない頃から、当社にとっては当たり前のこととされてきました。それは、当社が紡績メーカーとしては後発であったことと関係があります。時代・業界を問わず、後発が先発に打ち勝ち、追いつき、追い越すことは容易なことではありません。そうした厳しい環境下、社員を奮起させ急速な発展を成し遂げる精神的支柱となったのが、「企業公器」と「至誠一貫」という基本理念だったのです。

これらの、社会とともに歩む企業づくりを重んじる基本理念は、2009年の分社化の際、「未来共創」（創意工夫により変化を先取りする）を新たに加え、綱領として今もグループを束ねています。

## 日常を支えるという使命

日清紡グループは7つの事業セグメントを有しています。繊維、ブレーキ、紙製品、精密機器、化学品、エレクトロニクス、不動産——いずれの事業も世界のさまざまなシーンで、人間社会の持続的な発展に幅広く貢献することを使命としています。

当社が展開する綿100%の着心地とノーアイロン性能を両立させた「アポロコット®」シャツは、家事の軽減だけでなく節電にも役立っており、また世界シェアNo. 1のブレーキ事業は、モビリティの安全を支えています。ティッシュやトイレトペーパーなど日々の生活に欠かすことのできない日用品を手掛ける一方、環境負荷の少ないバイオプラスチックの普及に貢献する改質剤や太陽電池パネルの製造装置を販売しており、持続可能な社会の実現に貢献しています。また、日本無線（株）は、防災無線システムなど社会インフラの構築により災害に強い街づくりをサポートしています。

## 環境分野で挑戦を続ける

環境問題は人類にとっての最重要課題です。世界的に異常気象による災害が多発し、動植物の生態系の崩壊や、オゾン層の破壊が起きています。地球温暖化の解決は待ったなしの状況と言ってよいでしょう。私たちは「環境カンパニー」として、自らの事業活動における環境負荷の低減と、持続可能な社会に貢献する製品の開発・提供を通じて、環境分野への挑戦を続けています。

当社の独自の技術を活かした燃料電池の重要構成部品であるセパレータは、現在、家庭用燃料電池市場において圧倒的なシェアを得ています。

また、バイオプラスチックの普及に貢献する改質剤「カルボジライト®」は、卓越した安全性が海外からも高く評価され、環境規制の強化に伴い急速に需要が高まっています。

持続可能な社会の実現に向け、事業を通じた社会・環境への貢献が重視される現在、日清紡グループは創業以来の基本理念を胸に、日々、グローバルな挑戦を続けていきます。

2012年7月

鶴 崎 静

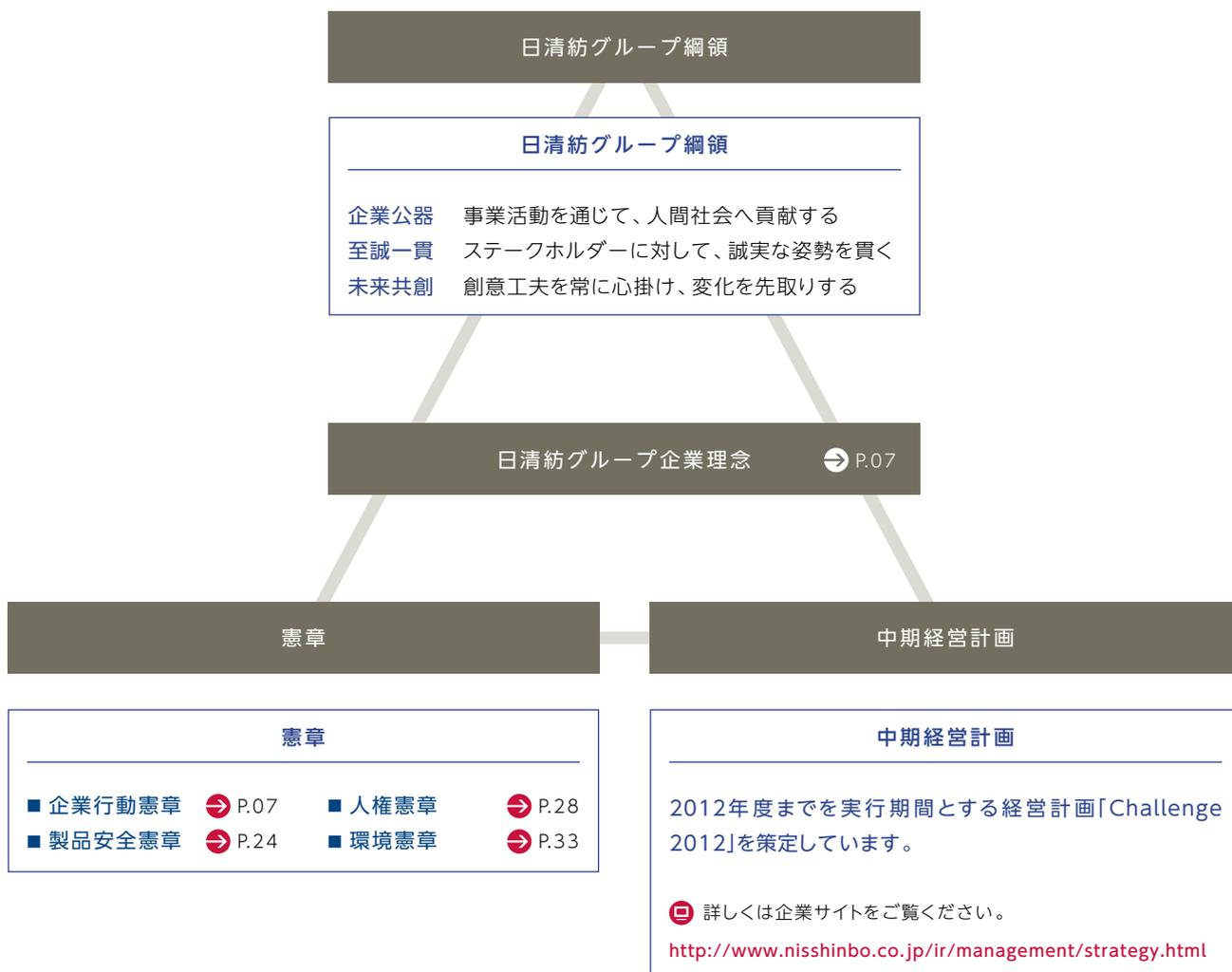
代表取締役社長

日清紡ホールディングス株式会社

## ビジョンを実現し社会に貢献

日清紡グループは、経営の根本として「企業公器」「至誠一貫」「未来共創」を綱領としています。綱領のもとに、企業理念と憲章を制定し、それらを基盤に持続的成長を目指すための計画として、中期経営計画を策定しています。

私たち日清紡グループは、これらを「ビジョン」として位置付け、その実現を通じて社会に貢献していきます。



## 社会の一員としての使命を重視

日清紡グループは、環境・エネルギー分野に経営資源を集中し、事業活動を通じて地球規模の諸課題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に向け貢献していきます。

### 日清紡グループ企業理念

- わたしたちは、環境カンパニーとして、世界の人々の快適な生活文化の向上に幅広く貢献します
- わたしたちは、企業は公器であるとの考えをもとに、社会的責任として公正・誠実な事業活動を行います
- わたしたちは、企業価値を高め、常に存在感のある企業グループであることを目指します

### 企業行動憲章

日清紡グループは、企業は公器であることを深く認識し、公正な競争を通じて付加価値を創出し、雇用を生み出すなど経済社会の発展を担うとともに、企業活動を通じて広く社会に貢献することを、その使命とする。そのため我々は、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、至誠一貫を基本理念として次の10原則に基づき行動する。

1. 社会的に有用で安全な商品・サービスを開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
2. 自己責任主義を旨とし、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
3. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。また、個人情報・顧客情報はじめとする各種情報の保護・管理を徹底する。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、日清紡グループの存在と活動に必須の要件として、主体的に行動する。
6. 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
7. 市民社会の秩序や安全に脅威を与えるいかなる反社会的勢力および団体とも、断固として対決し、関係遮断を徹底する。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法律の遵守はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、当該国・地域の経済社会の発展に貢献する。
9. 日清紡グループ各社の経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、グループ内にその徹底を図るとともに、取引先にも促す。また、グループ内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を確立するとともに、企業倫理の徹底を図る。
10. 本憲章に反するような事態が発生したときには、日清紡グループ各社の経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。

## ステークホルダーとともに

ステークホルダーの声に耳を傾け、ともに持続可能な社会づくりを目指すことは、企業の重要な課題です。日清紡グループは、ステークホルダーに対する責任を果たしつつ、より良い関係をつくってまいります。



## さまざまなシーンに根ざし、社会とともに 全事業で挑む、日清紡ならではの貢献

事業を通じて誠実に社会に貢献すること、これが日清紡グループの原点です。

安心・快適への要望や環境に配慮した素材・製品への関心が高まっている中、世界の  
人々の豊かな暮らしに役立つ新技術・新製品の開発に挑戦し続けます。

1



2

### 安心・快適な 社会を支える

快適な着心地を提供する繊維製品。安全・安心な  
モビリティを支えるブレーキ製品。暮らしに彩りや快  
適さを与える紙製品。防災無線などで安全な社会を  
支えるエレクトロニクス製品。日清紡グループは、  
人々の安心で快適な暮らしを支えるさまざまな事業  
を展開しています。

### 環境で際立ち 明日を創る

太陽光ビジネスでエネルギーの明日に貢献する精  
密機器事業。化学の力でグリーン社会の実現に貢献  
するケミカル事業。持続可能な社会の実現に貢献する  
燃料電池用セパレータや電気二重層キャパシタ。日  
清紡グループは、環境で際立ち明日の社会を創って  
いきます。



日清紡ホールディングス(株)では、完全人工光型植物工  
場(徳島県)でいちごを量産栽培することに国内で初めて  
成功しました。当社は植物工場で栽培したいちごを「あぼ  
るベリー®」として、出荷いたしました。また、引き続き増  
産・販路選定等事業拡大に向けて取り組んでまいります。  
(写真:完全人工光型植物工場で栽培したいちご「あぼるベリー®」)

## 世界に注目される日清紡の先端技術

世界中に感動を与えるモータースポーツ。先端技術が競われる最高峰レースを日清紡の製品が支えています。

### 電気二重層キャパシタ「N's CAP®」

日清紡ホールディングス(株)のキャパシタ事業部では、独自開発した“イオン液体”を電解質として用いた電気二重層キャパシタ「N's CAP®」の開発・製造を行っています。

電気二重層キャパシタとは、電気を電気のまま蓄積するコンデンサの一種です。2次電池のような化学反応を用いないため、充電・放電の繰り返しに強く、長寿命な蓄電デバイスとして近年注目を集めています。現在、搬送装置のピークカット用途や、ハイブリッドショベル(建設機械)のエネルギー回生用途で使われています。今後は、急速な市場拡大が予想されるマイクロハイブリッド\*車の電源としての採用を目指しています。

\* マイクロハイブリッド: アイドリングストップ+エネルギー回生システム



キャパシタモジュール(黄色部)

### 持続可能な社会に貢献する製品

- 電気二重層キャパシタ「N's CAP®」

### WECトヨタレーシングカーに搭載

「N's CAP®」は、2012年FIA世界耐久選手権(WEC)\*に参戦するTOYOTA Racing(トヨタ自動車)の“TS030 HYBRID”に搭載されています。キャパシタを採用することで、レース時に頻りに繰り返される急減速時の膨大なエネルギーを回生し、これを急加速時のモーター駆動に活用することが可能となります。「N's CAP®」は、性能や信頼性、設計技術が高く評価され、“TS030 HYBRID”のコア技術のひとつであるハイブリッド・システムの蓄電デバイスとして採用されました。

日清紡グループは、これからも品質や技術力をさらに高め、「N's CAP®」など、持続可能な経済・社会の実現に貢献する価値ある商品・技術の創造に挑戦し続けます。



TS030 HYBRID

\* FIA世界耐久選手権(WEC: World Endurance Championship): 世界各国にて全8戦からなる自動車の耐久レース。第3戦は世界3大レースのひとつ「ル・マン24時間耐久レース」、第7戦は富士スピードウェイにて開催される「富士6時間耐久レース」。



日清紡ホールディングス(株)  
新規事業開発本部  
キャパシタ事業部  
開発課

佐藤 英人

私は現在、電気二重層キャパシタ「N's CAP®」に関する業務に携わっています。「N's CAP®」は、環境に貢献できる製品として注目されており、将来、世界中で使用される製品になるとの信念を持って開発に取り組んでいます。

環境カンパニーの一員として、社会に貢献できる製品に携わっていることに、喜びと責任を感じています。

# ブレーキ事業

## 安全・安心なモビリティを世界で支える

ブレーキ事業はTMDグループが加わったことにより、さらにグローバルに摩擦材を供給できる事業となりました。

### ブレーキ用摩擦材のナンバーワン・メーカーへ

ブレーキ事業の6か国の生産拠点に2011年11月、TMDグループの8か国(重複国は除く)の生産拠点が加わりました。これにより自動車ブレーキ用摩擦材の世界シェアは約15%超となり、ナンバーワン・メーカーとなりました。

今後、TMDグループとの技術補完、グローバル人材・組織体制の構築により、自動車の重要部品である摩擦材をグローバルに供給する体制を確立し、安全・安心なモビリティを世界で支えていきます。



安心・安全を支えるブレーキ製品

### 新たな環境規制への取り組み

日清紡ブレーキ(株)は、従来より摩擦材製品における環境負荷物質削減に取り組み、環境負荷を低減した数々の製品を市場に送り出してきました。

最近、米国でサンフランシスコ湾の銅汚染の主原因が摩擦材に含まれる銅であると判断され、新たな環境問題としてクローズアップされました。日清紡ブレーキ(株)は、各州で新たな環境規制が打ち出されつつあった時点から、銅の含有量\*を削減した摩擦材の開発を進めてきました。そして、このたび銅の含有量を抑えても多岐にわたる要求性能をクリアできる摩擦材の開発に成功しました。今後、自動車メーカーと試作品の実験・評価を進め、量産を目指します。

日清紡ブレーキ(株)はこれからも環境負荷の少ない原材料、部品、副資材、補助材料を使用する製品の開発を優先的に進めていきます。

\*カリフォルニア州法で、2021年から5.0%以上、2025年から0.5%以上の銅を含有する摩擦材の販売規制が制定されています。日清紡ブレーキ(株)では他州での法規制化内容も確認しながら、適切な対応を続けます。

グローバルな供給体制を構築し、社会を支える



持続可能な社会に貢献する製品

■ グリーンパッド

# 繊維事業

コットンが大好きなあなたに  
～より快適な着心地を提案～

繊維事業では、コットンを中心とした新たな繊維製品の研究開発・商品化に日々たゆまぬ努力をし続けています。より快適な着心地を提案していくことで、これからも皆さまの豊かな暮らしに貢献していきます。

## 新しいコットンを通じて皆さまの豊かな暮らしに貢献

日清紡テキスタイル(株)は、コットンが大好きな皆さまに、いつもスッキリ、爽やかな綿製品を提供しています。さらに、より快適な着心地を提案していくため研究開発、商品化に日々取り組んでいます。

日清紡の繊維技術を集結した革新素材・加工の「アポロコット®」シリーズは、コットンのよさを損なわずに、優れた形態安定性能、抗菌・防臭性を標準装備しています。ノーアイロンで、節電にも貢献する、環境にやさしい商品群です。すでに高い評価をいただいている綿100%ビジネスシャツに続き、ハンカチーフ、コットンビジネスパンツ等、「アポロコット®」シリーズには、新しいアイテムが続々と増えています。

デニム分野においては、味わいのある色あい(中白)のデニム、着心地を保ちながらも洗濯で色落ち、色移りにくく、洗濯排水による汚染を軽減したデニム、夏に蒸れにくいデニム、洗濯後に乾きやすいデニムなど、ファッション性と快適性を持ち合わせ、さらに環境にもやさしいさまざまなデニムを開発しています。

私たちは、人にもやさしく、環境にもやさしいコットンで、より快適な着心地を提案し続け、皆さまの豊かな暮らしに貢献していきます。



綿100%ノーアイロンビジネスシャツ「アポロコット®」



### 開発の原点は「消費者目線」

日清紡テキスタイル(株)  
商品開発部 商品開発課

及川 竜一

私たちが開発している繊維製品は、私たち自身が実際に使う商品でもあります。自分が着てみて快適だと感じることができる商品でなければ自信を持ってお勧めできません。商品開発課のメンバーは全員が実験台です。開発商品はまず製品にして自ら着用し着心地を確かめています。これからも「消費者目線」を大切にし、皆様に本当に喜んでいただける商品を開発し続けます。



コットンビジネスパンツ



ハンカチーフ

## 持続可能な社会に貢献する製品

- アポロコット®
- エコシス®
- エコロジア®
- オイコス®
- バナナ繊維
- バイオマスモビロン
- 色落ち防止デニム

# 紙製品事業

## クオリティ・オブ・ライフの向上に向けて

日清紡ペーパー プロダクツ(株)は、家庭紙・洋紙・紙加工品の3事業において、技術と感性の融合によって暮らしに彩りや快適さを与える製品を開発・提供し、クオリティ・オブ・ライフの向上に貢献しています。

### 「環境と人にやさしいものづくり」を追求

日清紡ペーパー プロダクツ(株)は、「環境と人にやさしいものづくり」をコンセプトに、オリジナリティあふれる高品質な製品を開発するとともに、それらを市場に安定供給できる生産体制を構築しています。

家庭紙分野では、原料にコットンリントーパルプを加えたティシュペーパー「コットンフィール®」や吸水性を高めることで使用量が少なくすむシャワートイレ用トイレトペーパー、洋紙分野では、印刷性に優れ、色・風合い・パターンなどの特長を持つファインペーパーで、森林資源保護による地球温暖化防止に貢献するFSC認証紙など、各分野のニーズに対応した商品を揃えています。



FSC認証紙「ヴァンヌーボ®F-FS」



吸水性を高めたシャワートイレ用トイレトペーパー

### 高級パッケージ市場でのグローバル展開

紙加工品では、高級パッケージ分野において、海外有名ブランドメーカー向けに高い意匠性と機能性を備えた商品の企画・提案を行っています。

今後、中国をはじめとする海外での生産・販売活動をさらに進めていきます。

高級パッケージ市場でのグローバル展開により、ワールドサプライヤーとして、クオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。



LUXE PACK EXHIBITION SHANGHAIが主催する「第5回上海国際高級品包装展示会 (Luxe Pack Shanghai 2012)」に出展



日清紡ペーパー プロダクツ(株)  
洋紙事業本部紙加工品事業部  
企画営業課

堀内 裕之

紙加工品は、内需中心の電報・カード・成型品から、今後成長が期待できる高級パッケージ分野でのグローバル展開へシフトさせています。パッケージのグローバル調達を図る海外企業に対しては、展示会などを通じて、当社独自の商品を企画・提案しています。

中国上海で開催されたパッケージの展示会「LUXE PACK」へは、昨年に続き2年連続出展し、多くの引き合いをいただきました。

### 持続可能な社会に貢献する製品

- 「シャワートイレのために作った 吸水力が2倍のトイレトペーパー」
- FSC認証紙「ヴァンヌーボ®F-FS」「ヴァンヌーボ®スムーズ-FS」

# 化学品事業

## グリーン社会を化学の力で

14

日清紡ホールディングス株式会社  
CSR報告書 2012

「環境カンパニー」である日清紡グループの化学品事業は、美しい地球環境を守るために、持続可能な社会に貢献する製品の開発・製造販売に取り組んでいます。

### 持続可能な社会の実現への貢献

日清紡ケミカル(株)は、多彩な技術とノウハウを活用したさまざまな製品で、持続可能な社会の実現に貢献しています。

例えば、「カルボジライト®」や燃料電池セパレータ、電気二重層キャパシタといった環境・エネルギー関連の新規製品があります。また、断熱製品では、硬質ウレタンの発泡方法を変えることにより、代替フロンも含めフロンを一切使用しない「ノンフロンエアライトフォーム」を開発しました。「ノンフロンエアライトフォーム」は、マンション向け原液として業界初のJISマークの認証を2012年5月に取得しました。



日本工業規格適合性認証書



ノンフロンエアライトフォーム施工例

### 高機能性樹脂素材「カルボジライト®」

機能化学品事業部が展開する高機能性樹脂素材「カルボジライト®」は、地球環境に大きく貢献する魅力的な製品として、世界各地のユーザーから高い評価をいただいています。例えば、カーボンニュートラルな材料として知られているバイオプラスチックに添加することで、耐久性が飛躍的に向上し、これまで困難であった領域での普及を加速させています。また、水性塗料に添加することで、油性塗料に負けない強靱な塗膜を形成でき、脱溶剤化を実現しています。まさに化学の力でグリーン社会に貢献できる魔法のような製品です。

これらも、ユーザーからの要求を真摯に受け止め、技術力・開発力を事業力として、グリーン社会の構築に挑戦し続けます。



カルボジライト®



日清紡ケミカル(株)  
機能化学品事業部

高橋 郁夫

### 持続可能な社会に貢献する製品

- 高機能性樹脂素材「カルボジライト®」
- 水処理用担体「APG®」・「BCN®」
- X線撮影用カーボン基板
- ポリウレタン断熱材「エアライトフォーム®」
- 燃料電池セパレータ

私は、入社以来「カルボジライト®」に関する業務に携わってきました。「カルボジライト®」の主成分であるカルボジイミド樹脂は、入社した1989年当時、世の中にほとんどない化学物質で、まさに手探りで開発でしたが、将来、必ず世の中が求める製品になるとの信念を持って取り組んでいました。

現在、世界各地でグリーン社会に貢献する製品の一端を担っていることに大きな喜びを感じています。

# 精密機器事業

## 信頼の技術でエネルギーの明日に貢献

太陽電池製造装置、専用工作機械、自動車用精密部品、プラスチック成形品を主軸とする精密機器事業は、「環境」をキーワードに情熱を持って技術革新に取り組み、グローバル事業の実現を目指します。

### グローバルに「環境カンパニー」を具現化

日清紡メカトロニクス(株)は、これまで約70年間にわたって培ってきた各種産業向け専用工作機械、自動車用精密部品、プラスチック成形品などの開発・製造・販売の事業ノウハウを活かし、日清紡グループの掲げる企業理念である「環境カンパニー」の具現化を目指しています。

現在、世界では、最もクリーンかつ無尽蔵であるといわれる太陽エネルギーの利用に大きな期待が寄せられており、太陽光発電技術は日々進歩を遂げています。このような中、1998年に太陽電池モジュール製造装置の開発に着手し、これまで数多くのお客さまのニーズに応じて、グローバル市場での実績を築いてまいりました。



太陽電池製造装置  
(シミュレータ)



自動車EBS\*用精密アルミ加工部品  
\*Electric Brake System

### 持続可能な社会に貢献する製品

- 太陽電池製造装置(ラミネータ、シミュレータ、EL検査装置等)
- Ecoクロス®

また、自動車の安全・環境技術に欠かせない、コントロールユニットなどの精密部品や、省エネ対応の空調ファン製品などを提供しています。

急速なグローバル化が進む昨今、中国・タイ・台湾・韓国・インドなど東アジアを中心としたグローバル展開を進めています。今後も、太陽電池製造装置をはじめとする、持続可能な循環型社会に貢献する製品やサービスをグローバルに提供し、「環境カンパニー」としての使命を果たしていきます。



日清紡メカトロニクス(株)  
高分子事業部

浜島 有二

クロスフローファンは、家庭用ルームエアコンの室内機などに使用されるファンです。Ecoクロス®は、今まで培ってきた回転体技術に最新鋭の成形技術を融合し、クロスフローファンの羽根を従来より薄くし、省資源(使用原料削減)・低コスト化と高性能化を同時に実現した製品です。Ecoクロス®は全世界でお客さまから高い評価をいただいております。今後もその需要は高まっていくと確信しています。次なる開発品にもすでに着手しており、これからも地球環境に配慮した製品の開発に尽力していきます。



Ecoクロス®



従来品



薄ハネ

クロスフローファンの羽根を従来より薄くして低コスト化と高性能化を同時に実現

# エレクトロニクス事業

## 無線通信技術で、低炭素で安全なエネルギーの活用に貢献する

16

エレクトロニクス事業の上田日本無線(株)は、近距離無線通信技術、超音波関連技術、電源制御技術を基盤に、通信機器、医療機器など幅広い分野で事業を展開しています。

また、温室効果ガスを抑制するさまざまな機器により、低炭素で安全なエネルギーの活用に貢献しています。

### CO<sub>2</sub>ゼロ・エミッション機器

M2M<sup>\*1</sup>ソーラー式無線監視システムは、各種センサーの情報を、公衆無線回線を通じて、遠隔地より情報収集する無線監視システムです。電源にソーラー電源を使用しているため、電源工事、電話工事が不要な完全ワイヤレス化を実現しています。国内の工業用液化ガス残量情報収集システムとして多くの実績があり、海外への展開も検討しています。

MPPT<sup>\*2</sup>ソーラー電源装置は、昼間は太陽電池により発電電力を機器に供給しながら、高効率でバッテリーに充電し、夜間にその電力を供給します。

監視カメラ、テレメーター装置、セキュリティ機器、非常用放送、照明などの電源として使用できます。

\*1 M2M (Machine to Machine): 機器同士がネットワークを介して自動的に情報交換する通信技術

\*2 MPPT (Maximum Power Point Tracking): 最大電力点追従の意味で、太陽電池の出力電力が最大になる点を自動的に追従する制御技術



M2Mソーラー式無線監視システム用端末



PZ-0504太陽電池

DBB-109電源装置

MPPTソーラー電源装置

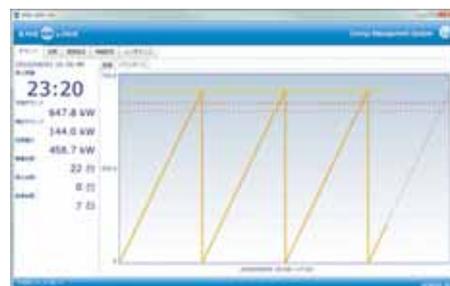
### 節電対策機器

エネ・リンク・ワイヤレスシステムは、デマンド値(30分最大需要電力)をリアルタイムで監視し、契約電力を超えると予測した場合、警報を発するとともに、空調設備などの電力負荷を停止させることができる、節電対策機器です。

マルチホップ(多段中継)方式の特定小電力無線を使用することにより、配線工事が不要なく、配線コスト削減および短期間でシステム構築が可能です。



エネ・リンク・ワイヤレスシステム電力監視・省エネ制御機器



現在デマンドと予測表示(リアルタイム表示)

### 持続可能な社会に貢献する製品

- M2Mソーラー式無線監視システム
- MPPTソーラー電源装置
- エネ・リンク・ワイヤレスシステム

# 新規事業・不動産事業

## 新たな課題へ、日清紡ならではの挑戦

17

日清紡グループは、快適な明日に向け、常に新しい挑戦を続けています。新規事業においては、植物工場の研究開発に着手し、いちごの量産栽培に国内で初めて成功するなど成果を上げています。不動産事業では、工場跡地を有効活用し、地域の活性化に貢献しています。

### 植物工場事業の挑戦

日清紡グループでは食の安全や食糧自給問題を社会的課題として捉え、植物工場の研究開発にも力を注いでいます。その成果のひとつとして、2011年9月、国内初となる完全人工光型植物工場でのいちごの量産栽培に成功しました。この植物工場で栽培した甘くておいしいいちごを「あぼろベリー®」と名付け、現在、主にケーキなどの洋菓子用に出荷しています。

一般的に、甘くておいしい国内産のいちごの旬は冬から春になりますが、この時期から外れた夏から秋に流通している酸味の強いいちごは、米国や韓国からの輸入品が大半を占めています。完全人工光型植物工場では気温や天候の影響を受けないため、室温や空調、照明などをしっかり管理することで年間を通じて甘くておいしいいちごを計画的に栽培・供給することができます。また、最先端の栽培管理システムで味や色などの個体差がほとんどなくなり、品質も安定しています。衛生管理も徹底することで、安全・安心ないちごを安定的に供給することが可能となりました。

徳島事業所で1万株の栽培設備からスタートした「あぼろベリー事業」ですが、現在6万株の栽培設備を導入中です。今秋にはこの7万株の苗に真っ赤に実った「あぼろベリー®」の出荷が始まる予定です。今後は藤枝事業所にも10万株の栽培設備を入れて、順次事業を拡大していく計画です。



「あぼろベリー®」  
(徳島事業所)

### 不動産事業の積極的な展開

土地の有効活用を通じ活力のある地域の街づくりをサポート

不動産事業部は工場跡地などの分譲事業を積極的に展開しています。

川越事業所跡地分譲事業では、257区画という大規模かつ新たな「街」を創造することにより、地域の活性化をサポートしています。また当地に接する道路(通学路)を安全に通行できるようにして欲しいという従来からの地域要望にも応え、歩道の整備も同時に行いました。

今後も地域社会との連携を密にし、地域の活性化に貢献できる街づくりを念頭に置いて、跡地開発を進めていきます。



「川越ココロマチ」街並み(川越事業所跡地)

## 2011年度活動実績

日清紡グループでは、2010年度まで、同年度を最終年度とする中期CSR目標に即しCSR活動を展開してきました。2011年度については、東日本大震災の影響を考慮し、2010年度の成果を踏まえた目標を設定し、さらなる取り組みの加速を図りました。2012年度は新たな中期CSR目標を設定する方向で検討を進めています。

|           | 2011年度目標   | 自己評価<br>(○、△、×) | 活動実績   |
|-----------|--|-----------------|--|
| マネジメント    | 財務報告に係る内部統制体制の強化   | ○               | 整備・運用状況評価により有効性を確認   |
|           | 情報インフラ・セキュリティ管理体制の整備                                       | ○               | 日清紡グループの「情報セキュリティに関するガイドライン」を策定した                            |
| 社会性に関する活動 | 品質保証体制の確認と構築   | ○               | クレーム集計、内容の分析とグループ内への水平展開                                     |
|           | 人権啓発活動の継続  | ○               | 人権啓発研修の実施  |
|           | ワークライフバランスの推進  | ○               | 次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定した                             |
|           | 障がい者雇用率1.8%以上の達成   | ○               | グループ全体で法定雇用率を達成  |
|           | 重大労働災害(傷害等級6級以上) 0件<br>休業度数率<br>国内グループ0.3以下<br>海外グループ0.6以下 | ×               | 重大労働災害 0件<br>休業度数率<br>国内グループ 0.62<br>海外グループ 1.05             |
|           | 適宜適切なIR活動の継続的強化  | ○               | 決算説明会開催(年2回)、投資家対応(年間延べ220社)、アニュアルレポート発行、インベストメントカンファレンス参加など |
|           | 産学共同研究の推進  | ○               | NEDO <sup>*1</sup> プロジェクト、産学・産学官共同研究を継続した                    |
| 環境に関する活動  | 環境マネジメントシステム(ISO14001など)の拡充・推進                             | ○               | 事業の必要性に応じて事業グループの一部で、環境マネジメントシステムの統合を開始した                    |
|           | 環境関連法改正への対応(国内および一部の海外事業所)                                 | ○               | PRTR新規対象物質 <sup>*2</sup> の把握、改正大気汚染防止法・改正水質汚濁防止法へ対応          |
|           | 「持続可能な社会に貢献する製品」の拡販  | ○               | 新規に日清紡グループ入りしたエレクトロニクス事業各社の対象製品・サービスを定義                      |
|           | 電力不足への対応と省エネ推進   | ○               | 東京電力・東北電力管内のすべての拠点で、ピーク電力を15%以上削減                            |
|           | 温室効果ガスの排出量削減   | ○               | 電力使用量の削減、徳島事業所ボイラー燃料のLNG化により、売上原単位で前年比10%削減                  |
|           | 廃棄物リサイクル率の向上   | ×               | 震災によるリサイクルルートの途絶により、グループ全体で2010年度比5%悪化し、85%となった              |

\*1 NEDO: New Energy and Industrial Technology Development Organization、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

\*2 PRTR物質: 「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律」に基づく制度(PRTR: Pollutant Release and Transfer Register制度)の対象物質で、排出量・移動量を届出ることが義務付けられている物質

日清紡グループは、現在、グループ全体のCSR活動の指針として、CSR目標を設定し、横断的に取り組んでいます。2011年度についても着実な成果を上げることができました。

2012年度については、新たにグループに加わった会社との目標の共有化を積極的に進めるなど、CSR活動のグローバルな浸透を図りたいと思います。



執行役員  
経営戦略センター 経営戦略室長  
CSR室長

奥川 隆祥

#### 総括

適切な運用体制を整え、財務報告の信頼性を確保した。2012年度も継続して取り組む

2011年度は、日清紡グループが情報セキュリティに関して守るべき項目を策定した

2012年度は、本ガイドラインのチェックリストによる自己点検を進め、不十分な点への対策を順次実施する

さまざまなお客さまのニーズに的確に対応できる品質保証体制の構築を継続する

2012年度はエレクトロニクス事業各社へも、活動を展開していく

出産・育児関係の諸制度について、さらに周知・浸透を図る

法定雇用率の引き上げに向け、継続して取り組む

重大労働災害は発生しなかったが、休業度数率は悪化した

2012年度は、労働災害多発事業所に対し「安全衛生重点指導」を実施する

2011年度の目標は概ね十分な達成度だった。2012年度は海外でのIR活動を開始する

2012年度も共同研究を継続する

2011年度は、東日本大震災への対応を最優先課題とし、ピーク電力の削減を最優先とした。そのため、他の数値目標は設定せず、各社が可能な範囲で努力することとした。結果は、概ね満足すべきものであった

## コーポレート・ガバナンス

日清紡グループは、「企業は公器である」との考え方に立脚し、ステークホルダーの皆さまに対して、公正・誠実な姿勢を貫くことを基本としてきました。

これをコーポレート・ガバナンスの取り組みにも反映し、経営の透明性の確保・説明責任の強化・企業倫理の徹底を図っています。

### グループの業務監督・執行体制

当社の取締役会は、経営上の重要事項について意思決定を行うとともに、取締役の業務執行を監督しています。また、当社はグループ経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、双方の機能強化を図ることを目的として、執行役員制度を導入しています。

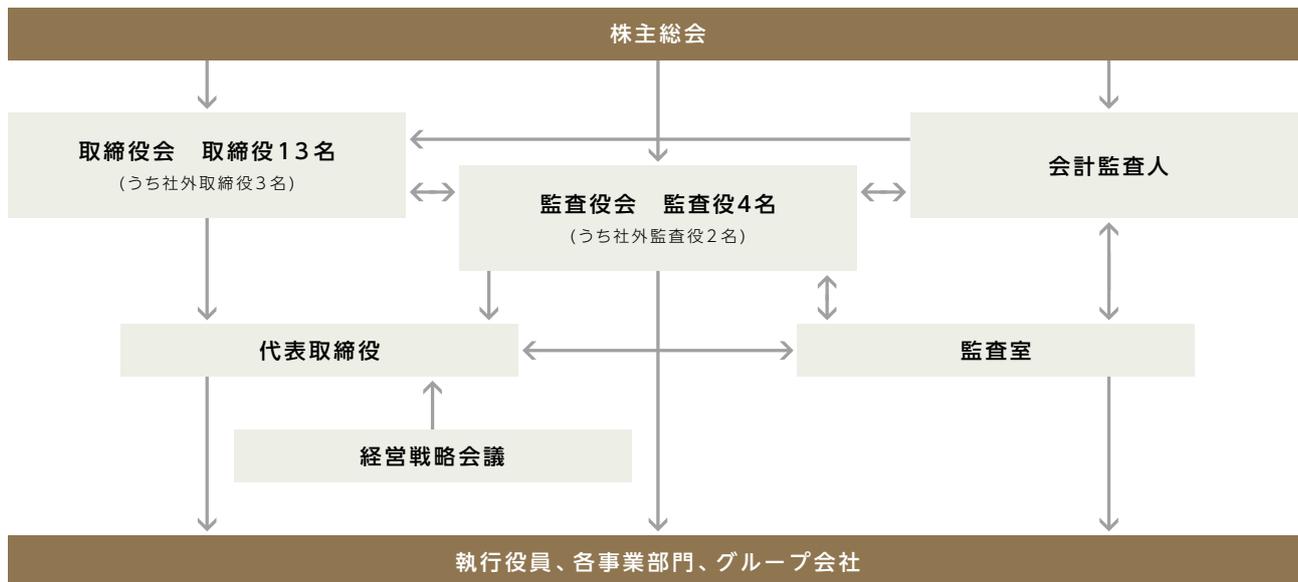
なお、取締役や執行役員などにより構成される経営戦略会議においては、グループの業務執行に関する重要事項について審議しています。

### グループの監査体制

当社は、監査役および監査役会を設置し、監査役による監査、会計監査人による会計監査役監査、内部監査部門である監査室による内部監査を実施しています。各監査間相互の連携を図り、コーポレート・ガバナンスの向上に努めています。

このほか、労働安全、環境、情報システムなどの専門領域についても、それぞれ監査を実施しています。

ガバナンス体制図



#### 代表取締役

代表取締役は、取締役会の決議により選出され、2012年3月末現在、代表取締役社長および代表取締役副社長の2名が就いています。

#### 取締役

取締役は、2012年3月末現在、社外取締役3名を含む13名が選任されています。取締役会は、経営上の重要な意思決定と取締役の職務の執行を監督しています。毎事業年度の経営責任をより明確にするため、取締役の任期は1年としています。

#### 執行役員

当社は、業務執行の意思決定の迅速化と事業責任の明確化を図るため、執行役員制度を導入しています。2012年3月末現在、執行役員は、12名（社長、副社長および取締役兼務の6名を含む）で構成されています。執行役員の任期は1年としています。

## I) 監査役会

当社の監査役会は社外監査役2名を含む4名の監査役により構成されています。監査役は、監査役会で定めた監査方針および監査計画に基づき、取締役会や経営戦略会議などの重要な会議への出席、業務状況の聴取などを通じて、当社および子会社の経営と業務執行の監査にあたっています。

## II) 内部監査部門

当社は、内部監査部門として業務執行ラインから独立した監査室を設けています。監査室は、日清紡グループ全体の業務遂行状況について継続的な実地監査を行い、合法性と合理性の観点より改善への助言・提案等を実施し、会社財産の保全ならびに経営効率の向上を図っています。2011年度は、ますます重要度が増してきた海外子会社の監査を強化しました。

## 情報の適時開示

当社は、透明性の高い経営の実現を目指し、ステークホルダーの皆さまに対する説明責任を果たすことに努めています。東京証券取引所が定める適時開示規則の遵守のほか、

株主・投資家の皆さまへの定期的な説明会を実施し、またインターネットの当社ウェブサイトでのタイムリーな情報提示を行うことで、常に内容の充実と信頼の獲得に努めています。

## 内部統制システムの整備

当社は、「日清紡グループ綱領」および「日清紡グループ企業理念」に基づき、グループ全体に健全で透明性の高い企業風土を醸成しています。業務執行の場においては、そのプロセスの中に問題発見と改善の仕組みを設け、内部統制システムを整備しています。

## I) 財務報告に係る内部統制報告

金融商品取引法に基づく内部統制報告制度、いわゆるJ-SOX対応については、2008年4月の運用開始以来、財務報告に係る内部統制の整備推進および充実を図り、統制活動を継続的に運用しています。2011年度も、監査室が中心となって整備・運用状況の評価を実施し、日清紡グループの財務報告に係る内部統制は有効であることを確認しました。

## グローバルなガバナンスの状況

### アジア事業の統括

日清紡グループは、2011年度に、業容が拡大するアジア現地法人の支援を目的として、次の2つの管理会社を設立しました。シンガポールに設立した「日清紡シンガポール株式会社」は、タイおよびインドネシアなどASEAN地域の現地法人8社への財務支援、内部統制支援を行いながら、グローバル人材の育成拠点としての役割を担っていきます。また、上海に設立した「日清紡企業管理(上海)有限公司」は、中国にある22社の現地法人を対象に、内部統制や各種業務の支援を行っていきます。

今後、この管理会社2社を各地域の「ハブ」として、グローバルな視点でガバナンスを強化し、グループ最適化を進めていきます。



# リスクマネジメント

日清紡グループは、企業の社会的責任を果たし、事業を継続して社会に貢献していくために、事業の円滑な運営に重大な影響を及ぼすおそれのあるさまざまなリスクに適切に対応して経営基盤の安定化を図る体制を整えています。

## 危機管理体制

当社は、リスクまたはリスクによりもたらされる損失を未然に回避・極小化するために、日清紡グループ全体を対象とした「危機管理規則」を定めています。また、毎年訓練や点検などを実施しています。リスク発生時の対応を定め、損失を極小化するための体制を適切に運用することにしていきます。2011年度は、震災発生時に一部不明確であった緊急事態発生時の迅速な初動体制などを見直しました。

### 1) 防災体制

グループ各事業所では自衛消防組織を編成して、初期消火訓練、救命救護訓練、ガス・薬品類の漏えいなど事業所の設備・立地に応じた訓練を定期的を実施し、緊急事態対応力の向上に努めています。特に、大規模事業所は毎年、総合防災訓練を実施し、経営層がそれを査察することにより、防災管理活動の活性化を図っています。2011年度は、14事業所で経営層による査察を実施しました。



排水処理装置からの流出防止訓練



地震発生時の全体避難訓練

## 個人情報保護への取り組み

日清紡グループは、お客さま・購入先さま・社員などに係る大切な情報の保護と適切な管理を重要な社会的責務と認識し、この責務を果たすために「個人情報保護憲章(プライバシー・ポリシー)」を定め、個人情報を取り扱っています。また、社内規定に基づいて運用状況を内部監査により確認し、外部への漏えい防止の徹底と継続的な改善に取り組んでいます。

## 情報セキュリティに対する取り組み

日清紡グループでは、お客さまの個人情報はじめとする機密情報の漏えいを防ぐため、情報セキュリティの強化に向けたさまざまな対策を継続的に進めています。

情報システムについては、コンピュータウイルス攻撃による情報漏えいを防止するため、ウイルス対策ソフトおよびセキュリティ修正プログラムの適用を徹底しています。また、情報システムへのアクセス監視など、内部不正による情報漏えいの防止や抑制にも努めています。

また、情報セキュリティガイドラインを定め、国内外グループ会社に対してチェックリストによる自主点検を実施しています。

個人情報保護と営業秘密管理については、システム対策に加え、内部監査を毎年実施して管理体制を継続的に改善しています。

# コンプライアンス

日清紡グループは、「至誠一貫」の考えのもと、公正・誠実な姿勢を貫き、事業を通じて社会に貢献することが重要と考え、行動基準として「日清紡グループ企業行動憲章」を定めています。さらに、その実現のために遵守すべき具体的な行動基準として「コンプライアンス行動指針」を定め、コンプライアンスの徹底に努めています。

## 企業倫理委員会

当社は、社長直属の機関として「企業倫理委員会」を設置し、取締役執行役員である委員長を中心に日清紡グループのコンプライアンスに係る事項に対処しています。

企業倫理委員会は、具体的には、①企業倫理に係る制度や規定類の整備、②企業倫理に係る従業員教育の内容および方法の決定、③企業倫理通報制度を利用した相談または通報に係る、実情調査・処理・処置・再発防止策の作成と実施に関する事項を担当しています。

## 企業倫理通報制度

日清紡グループは、法令違反の疑いのある行為や違反事実の早期発見・再発防止を目的として、「企業倫理通報制度」を設けています。この制度では、日清紡グループの従業員に限らず、社外の方からの通報も受け付けており、社内の企業倫理委員のほか社外の顧問弁護士へも直接通報することができます。また、制度の利用者が制度の利用を理由として不利益を被ることが無いよう、十分な注意が払われています。

通報や相談があった場合、企業倫理委員会は実情調査や対応策を検討し、適切な対応を行います。社外の顧問弁護士が通報を受けた場合においても、企業倫理委員会と密接に連携を取りながら対応を行います。なお、重要事項については、即時社長に報告し指示を受けます。

名前と連絡方法を明示して通報していただいた方には、通報内容についてどのような対応がなされたかなど、調査の経過報告および最終的な実施事項の概要をお知らせします。

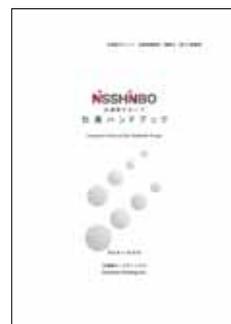
また、企業倫理委員会は、調査結果に基づく対応策をグループ内の各社に水平展開することによって、法令違反や企業倫理に反する行為の予防に努めています。

## コンプライアンス教育

日清紡グループでは、企業倫理の周知徹底を図るために、階層別・職場別の研修などでコンプライアンス教育を実施しているほか、新入社員研修時のカリキュラムにもコンプライアンス教育を組み込んでいます。

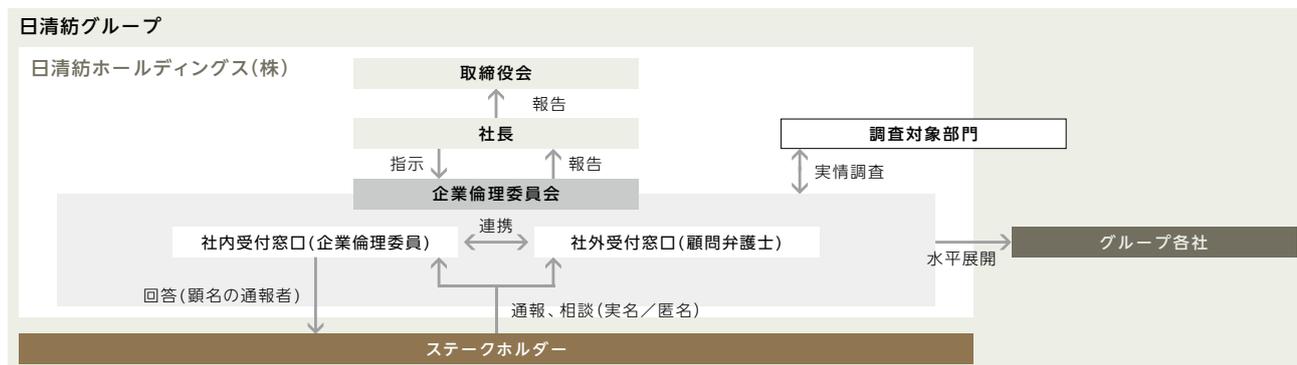
教育のツールとして用いられる「社員ハンドブック」には、「日清紡グループ企業行動憲章」および「コンプライアンス行動指針」など、企業倫理に関する内容が盛り込まれており、コンプライアンス教育と意識の啓発が行われています。

「社員ハンドブック」は、日本語と英語を併記しており、海外の子会社においてもコンプライアンス教育に有効に活用しています。非英語圏の海外子会社においても現地語への翻訳を進めています。



2011年度版「社員ハンドブック」

### 企業倫理に関する通報の流れ



## お客さまの視点に立ったものづくり

### 基本的な姿勢

日清紡グループでは、提供する製品・サービスに対しお客さまの満足と信頼をいただくための基本方針として「製品安全憲章」を制定しています。この基本方針を具現化するために、事業活動のさまざまな取り組みの中で「製品安全憲章」の考え方を社員に教育しています。

お客さまの求める性能と機能を有した製品を適時に安定的にお届けするとともに、優れた品質で安心してお使いいただき、信頼される製品であり続けることが使命と考えています。

お客さまに安全かつ高品質な製品を提供するために、製品安全ならびに品質保証体制の強化と適切な情報提供に努めます。

### 製品安全憲章

日清紡グループは、社会的に有用な製品・サービスを安全性に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得するため、次の4原則に基づき行動します。

1. 製品の開発から製造・販売・使用・サービス・廃棄に至る全ライフサイクルを通じて、お客さまの安全に配慮した製品づくりを追求します。
2. 製品の安全性を確保するため、国内外の関係法規・関係基準などを遵守することはもとより、自主的により高い目標を掲げて、お客さまの信頼に応えます。
3. 製品の安全性・機能・正しい使用法に関する的確な情報をお客さまに提供します。
4. 製品の品質保証体制を確立し、また、全従業員の製品安全意識の徹底を図ります。

### お客さまへの安全配慮

#### ブレーキの品質管理

ブレーキ部品の製造工程のうち、「焼入れ」(鋼の強靭性向上)工程は、品質不良がすぐには顕在化せず、重大な品質問題に至る可能性のある特殊工程のひとつです。焼入れの品質確保には専門の固有技術が要求され、工程の監査・指導は、カーメーカーが認定する監査員が実施しています。

日清紡ブレーキ(株)豊田事業所では、焼入れ工程の認定監査員資格を取得し、事業所への指導のみならず購入先さまとの情報共有を徹底し、重要保安部品であるブレーキの品質の維持向上に努めています。



監査員認定証



指導の様子

#### 公共工事での安全配慮

日本無線(株)は、公共事業工事の際の安全配慮について、さまざまな取り組みを行っています。

例えば、河川敷などの工事現場では、AED(自動体外式除細動器)を備え付け、作業者に心肺蘇生法などの教育を実施し、スポーツなどで河川敷を利用する方が救命処置を必要とする場合に備えています。鉄塔解体作業では、切断時の火の粉が歩行者に降りかかることや、火災の発生を予防するため、火の粉が飛散しないプラズマ切断機を採用しています。



河川敷の工事現場に備え付けたAED

## 品質改善の取り組み

### 満足度向上に向けて

日清紡ペーパー プロダクツ(株)では、家庭紙・洋紙・紙加工品各事業の品質保証担当を中心に、お客さまへの対応や品質クレームへの対応を行っています。また、定期的に、製販一体で品質保証会議を開催し、クレームの未然防止や品質問題の早期解決などの品質改善活動を進めています。

消費財であるティッシュやトイレトペーパーを扱う家庭紙事業では、「お客様相談係」を置き、苦情・クレーム・問い合わせに対し、関係部署と連携して迅速に対応する体制を整えています。

洋紙事業では、品質マネジメントシステムISO9001の認証を取得し、お客さまの品質に対する要求にきめ細かく対応しています。

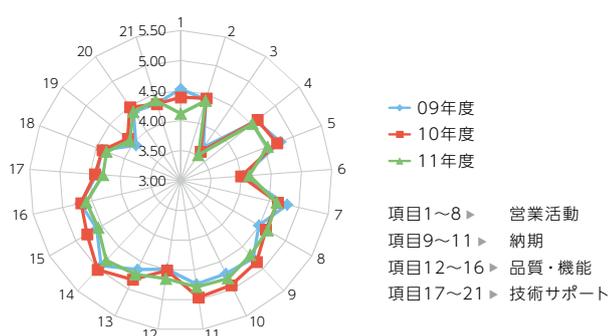
紙加工品事業では、品質保証担当のスタッフが、毎月中国の生産拠点や協力企業を訪問し、第一線の作業者のスキルアップなど品質管理について指導を行っています。

### 新日本無線の顧客満足度調査

新日本無線(株)は、提供する製品やサービスがお客さまからどのように評価されているかを検証するために、「顧客満足管理規定」に基づくCSアンケートを毎年実施しています。その結果を品質マネジメントシステムの運用を通じて、顧客満足の向上のための改善につなげています。

2011年度は、過去3年分のアンケート回答結果を分析して、各営業部門に報告しました。それを受け営業部門は、顧客満足の向上のための是正や改善などの対応を取っています。

#### カテゴリー別の満足度評価の内訳



## 商品表示

### 商品表示に対する取り組み

企業の商品表示については、社会の厳しい目が向けられています。

2011年度は適正な商品表示を継続していくために、前年度に引き続き、販売商品・サービスに関して以下の調査を行いました。

- 公称(表示)と実態との不整合の有無
- 「法令基準」「業界基準」「取引先との契約仕様」と実態との不整合の有無

調査の結果、グループ全社において、不整合は見られませんでした。商品表示に対する取り組みが実を結んだ結果であり、今後も良好な状態を維持します。

### 2011年度の主な表彰

2011年度日清紡グループの、外部からの主な表彰をご紹介します。これからも、お客さまの視点に立ったものづくりを大切にしていきます。

| ブレーキ  |
|---|
| <b>日清紡ブレーキ(株)</b><br>■ トヨタ自動車(株)から、「品質向上感謝状」を受領<br>■ 日産自動車(株)から、東日本大震災復旧支援協力に対する感謝状を受領  |
| <b>日清紡オートモーティブマニュファクチャリング</b><br>■ Toyota Motor Engineering & Manufacturing North AmericaよりCertificate of Achievementを受領  |
| <b>賽龍(北京)汽車部件有限公司</b><br>■ BWIグループから、優秀供給業者褒賞を受賞  |
| 精密機器  |
| <b>日清紡メカトロニクス(株)</b><br>■ コンティネンタル・オートモーティブ(株)から、サプライヤー オブ ザ イヤーアワードを受賞   |
| エレクトロニクス  |
| <b>日本無線(株)</b><br>■ ダム制御システム、情報コンセントの設備工事で施工品質、工程管理、創意工夫などが評価され、国土交通省より表彰<br>■ 東日本高速道路(株)向けハイウェイラジオの設備工事で施工品質、工程管理が評価され表彰<br><b>NJR (SINGAPORE) PTE LTD</b><br>■ Sony EMCS (Malaysia) から、Best Performance Supplier 賞を受賞 |
| その他   |
| <b>岩尾(株)</b><br>■ アディダスジャパン(株)から、総合優秀ベンダー賞総合第2位、開発部門、オペレーション部門1位を受賞   |

## 適切な情報発信と株主還元

### 基本的な姿勢

日清紡グループは「至誠一貫」の基本理念のもと、法令遵守はもとより、投資判断に影響を与える情報に関して、東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の適時開示等に関する規則」に従って、株主・投資家の皆さまに適時開示することに努めます。

### IRの方針

株主さまへの説明責任強化のため、インターネットの当社ウェブサイトにおいて、定時株主総会の招集・決議通知、決算短信、事業報告、有価証券報告書、アニュアルレポート、プレスリリースなどをタイムリーに掲載し、常に内容の充実を図ります。

### IRスケジュール

2011年度から直近までの主なIRイベントは下表のとおりです。

| 2011年  |                         |
|--------|-------------------------|
| 5月11日  | 2011年3月期決算発表            |
| 5月18日  | 同決算説明会                  |
| 8月9日   | 2012年3月期第1四半期決算発表       |
| 9月15日  | 事業戦略説明会(新日本無線㈱事業構造改革)   |
| 9月26日  | 事業戦略説明会<br>(TMD社買収について) |
| 11月8日  | 2012年3月期第2四半期決算発表       |
| 11月15日 | 同決算説明会                  |
| 2012年  |                         |
| 2月7日   | 2012年3月期第3四半期決算発表       |
| 3月8~9日 | 国際インベストメント・カンファレンス参加    |
| 5月10日  | 2012年3月期決算発表            |
| 5月17日  | 同決算説明会                  |

### IR活動の状況

年2回(通期と第2四半期累計)開催する株主・投資家さま向けの決算説明会では、社長自らが業績の説明を行っています。質疑応答を通じ、当社経営に関するご意見をたまわる貴重な機会とさせていただいています。

これら定例発表のほか、新日本無線(株)の事業構造改革やTMD社の買収など重要案件については、適時適切に情報開示するとともに、事業戦略についての説明会も開催しました。

### 株主還元の状況

当社は、安定した配当の確保が株主の皆さまへの責務と考え、年間15円の普通配当を基本とし、収益の向上に応じて増配などの利益還元を行うことを方針としています。

この方針に基づき、2012年3月期の期末配当金については、1株当たり7円50銭とすることを、2012年5月10日の取締役会にて決議しました。これによって中間配当金と合わせた年間配当金は、1株当たり15円となりました。

### 外部評価

#### ウェブサイトの充実

日興アイ・アール(株)調査による「2011年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、調査対象3,603社中、総合ランキングで118位、業種別ランキングで3位にランクインし、それぞれ優秀サイトに選定されました。

#### 世界的SRIインデックス継続組入れ

世界第二大SRI(Social Responsible Investment:社会的責任投資)指標のひとつであるFTSE4Goodインデックスに、当社は2004年以来継続して組入れされています。当社のCSRの取り組みに対する期待が、世界的に高いことの表われと考えています。



FTSE4Good

## 公正・健全なパートナーシップ

### 基本的な姿勢

日清紡グループでは、調達活動の基本的な考え方として「購買基本方針」を定め、CSR調達に努めています。

素材メーカーとして、バリューチェーンにおいて社会的責任を果たすため、CSR調達への対応を私たちの使命とし、購入先さまと協同して取り組みを推進しています。

#### 購買基本方針

1. 適正な購買活動のためには、事業活動に必要な原材料・部品・ソフトウェア・サービスなどの購入先をはじめ、各分野で事業を営んでいる多くの人々の協力と支援を得て成り立つことを認識する。
2. 購入先に対して優越的地位にあったとしても、その地位に乗じて購入先に不当な負担を負わせるようなことはしない。
3. 独占禁止法上問題となる不当な相互取引、「下請代金支払遅延等防止法」上禁止されている不当な買いたたき、受領拒否、返品、支払遅延、購入・役務利用の強制、不当な経済上の利益の提供要請などの違法行為を行わない。
4. 経済合理性のみならず、循環型社会の実現に貢献する製品を創出するため、より環境負荷の少ない原材料・部品・副資材・補助材料の優先的調達に努める。また、購入先における法令遵守、品質・安全性、環境保全、情報セキュリティ、公正取引・倫理、安全衛生、人権・労働などにも関心を持ち、各々が社会的責任を果たしていくことができるようCSR調達に努める。

### 機密保持の徹底について

購入先さまと設計・開発段階から連携する中で共有される知的財産や技術・ノウハウに関する情報などについて、機密保持契約を取り交わし、漏えい防止を図っています。

また、営業秘密管理については、毎年内部監査を実施し、適切に管理されていることを確認しています。

### 購入先さまとのパートナーシップ

日清紡ブレーキ(株)では、東日本大震災およびタイ洪水からの復旧に際し、購入先さまとともに対応しました。

福島第一原子力発電所付近には複数のブレーキ用原料の購入先さまがあり、震災後、調達ができなくなりました。購入先さまの別の事業所品で代替する方針をお客さまへ説明し、試験結果について了解を得て、納品障害の発生を防ぐことができました。

タイの生産拠点である日清紡ソブーンオートモーティブ(株)は、直接の洪水被災は免れたものの、複数の購入先さまで操業・流通に支障が発生しました。調達できなくなった部品の金型を突貫製作して生産を他の購入先さまに依頼し、浸水した別の購入先さまには倉庫の一区画を提供しました。災害がどこまで拡大するかわからない状況の中で、購入先さまと密接に連携して対応したことにより、被災の影響を最小限に留めることができました。



生産設備に被害のあった購入先さま周辺の冠水状況

### グループに広がるCSR調達～長野日本無線

長野日本無線(株)は、サプライチェーンにおける社会への責任を果たすため、新たに「調達基本方針」を定めました。自らこの方針を遵守するとともに、購入先さまへ配布・展開しました。

また、購入先の皆さまにもCSRへの取り組みをご理解いただくことを目的とし、CSRに関するアンケートを実施しました。調査は、「人権・労働」「安全衛生」「環境」「公正取引」「企業倫理・コンプライアンス」「品質・安全性」「情報セキュリティ」「社会貢献」への取り組み状況について実施し、購入先さま196社から回答いただきました。

こうした活動を通して、購入先の皆さまに調達方針についての理解を深めていただくとともに、コミュニケーションを図り、サプライチェーン全体でCSR活動の推進に努めてまいります。

# 人権尊重・多様性が活きる職場

## 基本的な姿勢

企業の恒久的な繁栄の鍵となるのが社員一人ひとりの力です。社員の人格を尊重し、適材適所に努めることにより、社員にとってより働きやすい職場を目指しています。

そのために、人権・雇用などあらゆる面で多様性を尊重し、ワークライフバランスの推進に取り組んでいます。また、安全で健康に働ける職場を目指して、労働災害の撲滅を目標に掲げて安全衛生活動に取り組んでいます。

日清紡グループは、人権に関する基本的な考え方を「人権憲章」に定め、社員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい職場環境の整備に努めています。

### 人権憲章

日清紡グループは、従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現するため、次の3原則に基づき行動します。

1. 一人ひとりの違いを認め、個性と創造力を尊重し、出生・国籍・信条・宗教・性別・人種・民族・年齢・障害の有無・病歴・学歴・社会的地位等による差別を行いません。
2. いかなる形態であろうと、強制労働・児童労働を認めません。サプライヤーに対しても、この方針の理解と協力が得られるよう務めます。
3. 差別のない健全な職場環境実現のため、人権問題の正しい理解に努め、セクシュアル・ハラスメントやその他のハラスメント行為を行いません。

## 人権尊重に向けて

日清紡グループは、人権を尊重し、より働きやすい職場を目指して、さまざまな人権啓発活動に取り組んでいます。

社内啓発研修として、新入社員研修や社員全員を対象とした全体研修、グループ各社の経営層を対象としたトップ

層研修などのプログラムを体系的に実施しています。

また、社員の人権意識の高揚を目的として、人権週間に「人権啓発標語」の募集を行っており、毎年約3,000作品の応募があります。

### 人権研修一覧

| 研修名             | 対象者             | 研修内容                |
|-----------------|-----------------|---------------------|
| 新入社員研修          | 新入社員            | 人権の基本を学ぶ            |
| 採用担当者研修         | 各社採用担当者・人権啓発担当者 | 外部研修に参加             |
| トップ層研修          | 役員              | 外部講師による啓発研修         |
| 全体研修            | 全社員             | 人権をテーマとしたDVD視聴、講義など |
| ハラスメント相談窓口担当者研修 | 新任相談員           | 相談窓口担当者としての基本を学ぶ    |

## 人権相談窓口

セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの相談を受け付ける「ハラスメント相談窓口」を各事業所に設置しています。原則として男女2名以上が相談窓口を担当し、相談しやすい体制にしています。また、相談者の立場を尊重した適切な対応を徹底するため、新任の担当者には基本スキルを学ぶ研修を実施し、さらにフォローアップ研修も定期的に行っています。

## 人権啓発標語

毎年秋に、全グループ会社の社員とその家族を対象に「人権啓発標語」を募集しています。

日頃人権について考えていること、気づいたこと、差別のない明るい社会・職場づくりを呼びかける内容などの標語が多数集まります。2011年度は2,983点の応募があり、この中から最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作10点を選出し表彰しました。

年々応募数は増えており、海外からの応募もあります。

### 2011年度 最優秀賞作品

ぼくらはみんな持っている 違いを認める優しい心  
差別を許さぬ厳しい心

## メンタルヘルス

メンタルヘルス不調により休業する社員の対応については、2010年度に「メンタルヘルス対応ガイドライン」を制定し、長期休業となる場合の休職制度の拡充と復職のための「試し勤務」の制度化を行いました。これによりメンタルヘルス不調者に対し、より適切な対応が各職場でとれるようになりました。

また、セルフケアのための「職業性ストレス簡易診断」、ラインケアにつながる管理職などを対象にしたコーチング研修、過重労働・長時間労働が発生しないよう労働時間管理に注意を払うことなどにより、メンタルヘルス不調の予防にも力を注いでいます。

## ワークライフバランス

日清紡グループでは、仕事と生活の理想的なバランスを保つことで社員の能力がフルに発揮されるという考えのもと、社員の多様な生活スタイルを支えるさまざまな制度を設けています。子育て支援では、育児休職制度・育児短時間勤務制度・子の看護休暇制度のほか、育児のために退職した人が3年以内であれば申し出により復職できる「育児退職者復職制度」などを設けています。

2012年1月には、これまで育児休職制度を3回利用した女性が管理職に昇格し、職場のリーダーとして活躍しています。

## 障がい者雇用

グループ全体で障がい者雇用を推進し、障がいの有無に関わらず従業員が安心して働くことのできる環境づくりに取り組んでいます。

国内各社においては、定期的に障がい者雇用状況を調査し、雇用率達成を目指しています。グループ全体では法定雇用率(1.8%)は達成しているものの、一部未達の会社もあります。来春の法定雇用率の引き上げに向けて、引き続き取り組んでいきます。

## シニア活用

日清紡グループでは、60歳の定年退職を迎えて、健康上業務遂行に問題がなく、勤労意欲の豊富な方が、継続して働くことができる再雇用制度を設けています。この制度では、定年退職後のさまざまな働き方の希望に応えるため、定年退職前と同じ勤務形態をとる「フルタイプ勤務」、1日の勤務時間はフルタイプ勤務と同じで1週間あたりの勤務日数が少ないタイプ、1日あたりの勤務時間が短いタイプの2つの「ショートタイプ勤務」の3種類の勤務形態から、働き方を選択することができます。

## 障がい者スポーツ支援

### 水泳選手権大会で2位、松本杉さん

日清紡ブレーキ(株)は、「障がい者スポーツ支援」として館林事業所の松本杉さんを応援しています。

摩擦材製造部の生産管理業務で活躍している松本さんが力を注いでいるのは「水泳」。これまで国内の数々の水泳大会にチャレンジしており、昨年11月に開催された「第28回日本身体障害者水泳選手権大会」では、男子50メートルバタフライと男子50メートル自由形の2種目に出場し、両種目とも準優勝という好成績を収めました。「次は優勝を」と練習に励んでいます。



生産管理業務中の松本杉さん(上)  
次の大会に向けて練習に励む様子(下)

# 活き活きとした職場づくり

## 基本的な姿勢

企業にとって最も大事な財産である「人財」の価値を高め、社員一人ひとりが能力を発揮し働きがいを持って仕事に取り組めるよう、日清紡グループでは、社員の教育・研修に力を入れています。

実務経験を通じて技能・技術を習得し職務遂行能力を高めるOJT(On the Job Training)を基本としつつ、各種階層別研修や、知的財産・技術などの専門教育、若手社員を対象とした語学留学制度POET(Program of Overseas English Training)などのさまざまなOff-JT(Off the Job Training)のプログラムを用意しており、今後はさらに、グローバル化に対応できる人材の育成を目的とした教育・研修の充実を図る計画です。

また、日清紡グループでは、「企業公器」、「至誠一貫」という基本理念を正しく理解し、ベクトルを合わせて業務に取り組むことが、会社と社員の双方の成長につながると考え、さまざまな教育・研修の機会を捉えて、経営理念の浸透に努めています。

さらに、能力・知識・人間性を高めようという社員の意欲に応えるため、通信教育受講費用・各種資格取得費用・TOEIC受験料に対する補助など、自己啓発のサポートも幅広く行っています。

### 主な教育・研修内容

|          |   |
|----------|---|
| 職位別教育・研修 | 新部長・新課長研修、経営戦略基礎研修、コーチング研修、中堅幹部育成研修、事業所教育など |
| 語学・異文化研修 | 語学留学(POET)、グローバル人材育成研修など                    |
| 技術・知財研修  | 技術者・開発者教育、マーケティング営業担当者教育、知財担当者教育など          |
| 専門実務研修   | 各社専門教育、N-OJTプログラムなど                         |
| 自己啓発     | 通信教育受講補助、各種資格取得補助、TOEIC受験料補助、英会話教室受講補助など    |

## グローバル採用

### (1)外国人採用

日清紡グループでは、事業活動のグローバル化に対応するため、国籍・キャリアを問わない多様な人材の登用・育成に取り組んでいます。

そうした中で、外国人大卒総合職については、2011年度に2名、2012年度に4名が入社しました。2011年度入社者は採用活動の対象が日本の大学への留学生に限られていましたが、2012年度入社者は採用活動のフィールドを海外にも広げたことにより、4名中2名が中国での面接による採用でした。今後も中国・韓国など東アジアを中心に、積極的に優秀な人材を海外にも求めていきます。

### (2)インターンシップ

2010年度より外国人対象のインターンシップを実施しており、2011年度は、3名の学生を受け入れました。3名とも意欲的に実習に取り組んでおり、学生・会社相互にとって、有意義な機会となりました。インターンシップの体験を通じて、日清紡グループへの理解を深め入社した学生も出ています。今年度も国籍を問わず広く外国人学生をインターンシップに受け入れる予定です。

## グローバル展開と私の抱負

私は現在研修中ですが、日清紡グループは、百年以上の歴史を持つ老舗企業でありながら、時代の変化に応じて柔軟に変わっている、ということを実感しています。

昨年、欧州大手TMD社を買収し、日清紡は摩擦材事業で世界一のシェアを持つこととなりました。また、中国の常熟で新しい工場も立ち上がっています。ブレーキ以外でも積極的に海外展開を進めています。グローバル化に伴い、外国人社員としての能力が発揮できるフィールドがどんどん広がっていくと思います。

「高い志と倫理観を持つ」「グローバル人財になる」「社会の動きに関心を持つ」という鶴澤社長からの新入社員への3つの要望に応えられるよう、頑張っていきたいと思っています。



日清紡ブレーキ(株)調達部  
程 茜

## 労働安全衛生活動

### (1) 総括

日清紡グループは、国内外の子会社を含めグループ一体で労働安全衛生活動を展開しています。共通活動としての5S活動、ヒヤリハット、リスクアセスメントに加え、各事業それぞれの設備や災害特性に応じて、「挟まれ・巻き込まれ事故防止」「不安全行動の撲滅」「作業手順の見直し」「職場環境整備(暑熱対策)」などの重点課題を設定して労働災害防止に取り組んでいます。

### (2) CSR目標の達成状況

2011年度に重大災害(見込み障害等級6級以上の災害)の発生はなく、CSR目標(重大災害件数 ゼロ)を達成しました。国内事業所の休業度数率は、日本国内全体の製造業の実績1.05を下回ったものの0.62(2010年度 0.36)となり、海外事業所は1.05(同 0.85)でした。国内事業所、海外事業所ともに、2010年度比で悪化しました。

#### CSR目標達成状況

|                      |    | 2011年度<br>CSR目標 | 2011年度<br>実績 | 達成状況 |
|----------------------|----|-----------------|--------------|------|
| 重大災害件数 <sup>*1</sup> |    | 0               | 0            | ○    |
| 休業度数率 <sup>*2</sup>  | 国内 | 0.3             | 0.62         | ×    |
|                      | 海外 | 0.6             | 1.05         | ×    |

<sup>\*1</sup> 重大災害 見込み障害等級6級以上の災害

<sup>\*2</sup> 休業度数率 労働時間100万時間あたりの労働災害による死傷者数で休業災害発生頻度を表す指標

$$\text{休業度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

### (3) 国内事業所の活動

国内事業所では、労働災害防止に向けて、2010年度を上回る安全対策費を投じ、設備の充実による不安全状態の改善を図りましたが、労働災害は増加しました。この背景には作業時の不安全行動が減少していないと考えられます。2012年度は、こうした状況を踏まえ、リスクアセスメントと設備の定期点検を確実に実施することに加えて、低頻度の定期作業の標準化と作業ルールの遵守を徹底することに取り組みます。

### (4) 海外事業所の活動

海外事業所では、労働災害防止に向けて、グループ各社の経営層による現地での安全管理の指導を継続していますが、設備・作業・管理それぞれの面で改善の余地が大きいと考えます。2012年度は、こうした状況を踏まえ、労働災害が多発している海外事業所に対し、安全管理グループと各事業の安全担当部門が共同して集中的な「安全衛生重点指導」を行い、不安全状態や不安全行動の洗い出しと対策を確実に実施することで労働災害防止を図ります。

### (5) 安全衛生監査

日清紡グループでは、国内製造事業所を対象に定期安全衛生監査を実施しています。安全衛生管理グループと各事業代表の安全衛生管理責任者、他事業所の安全衛生管理者などで編成した監査チームが、対象事業所の安全衛生管理状況を確認しています。2011年度は24事業所の定期安全衛生監査を実施しました。

### THAI NJR優秀事業所表彰

THAI NJR CO.,LTD.は、タイ労働省によるタイ国内事業所の安全衛生に関するコンテストにおいて、昨年に引き続き優秀事業所として表彰されました。今回で8年連続の受賞となります。表彰式は、タイ全国安全週間の7月にバンコクで開催され、労働大臣よりトロフィーが授与されました。表彰会場には各社のブースが出展され、安全衛生に関する取り組みが紹介されました。



表彰式の様子



授与されたトロフィー

## 地域との交流・貢献活動

### 地域との交流

#### タイ洪水被災地での活動

2011年秋、モンスーン季に発生したタイ大洪水では、首都バンコクを含めたチャオプラヤー川流域の広い範囲で浸水被害が発生しました。バンコク近郊にある日清紡メカトロニクス(タイランド)(株)は、直接の被災は免れたものの、一部のお客さまや周辺地域が浸水被害を受けました。

同社では、被災地の災害救助ボランティア活動に参加し(写真)、飲料水・食料品など援助物資の配給や仏教寺院の清掃活動(延べ100名が参加)を行ったほか、タイ陸軍防災活動への水・食料の提供などを行いました。

また、被災の危険が高まってきた工業団地管理公社に協力し、洪水対策本部を社内に受け入れました。工業団地周辺では、土嚢2,000袋を提供し、延べ100名が積み上げに協力したほか、標高測定調査の支援などを行いました。



災害救助ボランティア活動の様子

#### タイ洪水 日本赤十字社への義援金

タイには、日清紡グループの会社が3社あります。昨年のタイ洪水で、3社とも直接の浸水被害は免れましたが、サプライチェーンは分断し生産体制は大きな影響を受けました。

当社は日本赤十字社を通じ、被災者の救済や被災地の早期復興のための義援金1,000万円を寄付しました。

### 地域社会貢献

#### 地域の一員として取り組む環境保全活動

(株)エヌ・ジェイ・アール福岡では、地域社会の一員として社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

2011年度は、会社周辺道路の清掃ボランティア活動を3回にわたって実施しました。この活動には延べ196名の社員が参加し、約80kgのゴミを回収しました。

また、ボランティア休暇制度を利用した地域環境保全活動として、廃品回収、公園清掃、地域公共施設清掃、町内リサイクル活動、ラブアース・クリーンアップ活動に取り

組んでいます。この活動には、延べ435名(目標は240名)が参加しました。

今後も、社会貢献活動に積極的に参画していきます。

### 次世代教育への貢献

#### AMラジオ組み立て教室

2011年11月、日本無線(株)三鷹製作所において、近隣の小学校4年生から6年生を対象に、「AMラジオ組み立て教室」を開催しました。28名の参加者は、クイズを交えた説明で無線についての知識を得たうえで、はんだ付けも含めてAMラジオを組み立てました。ものづくりの楽しさや放送を受信した時の喜びを味わいながら、無線の仕組みを理解し、無線への関心が高まるように工夫をしました。

このような活動を通じて、次世代の育成や地域社会に貢献しています。参加者からは、自分の作ったラジオが聞けて楽しかった、また参加したいなどの声がありました。



子どもたちの熱気にあふれる授業

### スポーツ振興活動

#### ジュニアテニス支援

当社は、財団法人日本テニス協会主催の「全日本ジュニアテニス選手権」に2005年大会から特別協賛し、スポーツ振興による社会貢献の一翼を担っています。

日本全国のジュニアNo.1が決定するこの選手権の上位入賞者のうち4名は、当社がサポートする「南米ジュニアテニスサーキット遠征」に参加できます。この遠征は国際経験を積む貴重な機会です。2009年全日本選手権を制した奈良くるみ選手や2011年ウィンブルドン・ジュニアで日本男子初のジュニア四大大会シングルベスト4入りを果たした内田海智選手など有力なジュニアを輩出しています。



全日本ジュニアテニス選手権  
Photo/H.MANO

## 2011年度 環境への取り組み

### データ・事例編

日清紡グループは、環境・エネルギー分野を今後の成長ドライバーとする「環境カンパニー」を目指しています。これらの分野での事業活動を通じて社会に貢献し、持続的成長を図ります。2011年度は、東日本大震災、原発事故、タイ洪水という危機が発生しました。環境活動は、サプライチェーンの回復に配慮しつつ、ピーク電力対策や省エネといった電力不足問題の対応に重点を置きました。また、新たに日清紡グループに加わったエレクトロニクス事業各社と目標の共有化を図り、持続可能な社会に貢献する製品・サービスのさらなる創出に注力しました。

### 環境憲章

日清紡グループは、環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、次の6原則に基づき自主的、積極的に行動します。

1. 国内外の法規制を遵守するとともに、自主管理基準を積極的に設定して事業活動に取り組みます。
2. 広く社会に対し、積極的に環境情報を開示し、信頼を得ていきます。
3. 製品のライフサイクル全体の環境影響を評価し、持続可能な社会の実現に貢献する技術・製品・サービスを創造して環境と経済の両立を実現します。
4. 環境マネジメントシステムをグループ全体に広め、環境パフォーマンスの継続的改善を行います。
5. 省エネルギー・省資源、廃棄物の減量、リサイクルの推進、地球温暖化物質・環境汚染物質等の排出削減等により、資源の有効活用と環境負荷の低減に努めます。
6. 環境教育・啓発を通じてグループ全員の環境意識を高め、積極的に本憲章に沿った活動に取り組みます。



最高峰のノーアイロンシャツを創出すべく、技術者が力を結集。原綿の選定から紡績・織布・加工・縫製に至るまで、総合的な研究をスタートしました。

キータクノロジーとなる加工では、約15,000通りのさまざまなラボテストを実施し、W&W性(ウォッシュ・アンド・ウェア性：洗濯後のしわの残り具合を表す指標)が格段に向上する新手法を見出しました。生地加工の量産化技術や縫製ノウハウを確立し、まったくシワが気にならない画期的なシャツを完成させたのです。

(写真：「アポロコット®」)

### 33 環境報告

- 34 2011年度 マテリアルバランス
- 36 環境マネジメント
- 37 省エネルギー
- 38 地球温暖化の防止
- 40 省資源
- 42 化学物質管理
- 44 生物多様性
- 45 輸送量の削減
- 46 環境貢献活動
- 47 環境コミュニケーション
- 48 環境会計

## 日清紡グループの事業活動と環境負荷

## インプット

|                          |                        |               |                          |                       |
|--------------------------|------------------------|---------------|--------------------------|-----------------------|
| <b>エネルギー使用量</b>          |                        | <b>9.16</b>   | <b>百万GJ<sup>*1</sup></b> | <b>(+5%)</b>          |
| 主な内訳                     | 電力                     | 577.0         | 千MWh                     | (+4%)                 |
|                          | 内 太陽光発電量 <sup>*2</sup> | 0.69          | 千MWh                     | (+197%)               |
|                          | 石炭                     | 87.1          | 千t                       | (+18%)                |
|                          | 重油                     | 10.3          | 千kL                      | (-18%)                |
|                          | 都市ガス(天然ガスを含む)          | 22.9          | 百万m <sup>3</sup>         | (+7%)                 |
| <b>水総使用量</b>             |                        | <b>30,610</b> | <b>千m<sup>3</sup></b>    | <b>(-9%)</b>          |
| 主な内訳                     | 地下水                    | 15,497        | 千m <sup>3</sup>          | (-13%)                |
|                          | 工業用水                   | 14,560        | 千m <sup>3</sup>          | (-5%)                 |
| <b>原材料 総投入量</b>          |                        | <b>302.4</b>  | <b>千t</b>                | <b>(-2%)</b>          |
| 主な内訳                     | 綿花・綿糸                  | 34.5          | 千t                       | (+2%)                 |
|                          | パルプ(古紙パルプ含む)           | 61.5          | 千t                       | (0%)                  |
|                          | 鋼材                     | 49.7          | 千t                       | (+9%)                 |
|                          | プレーキ用粉材料               | 21.1          | 千t                       | (+12%)                |
|                          | 化学物質                   | 67.4          | 千t                       | (-1%)                 |
|                          | 梱包材                    | 20.4          | 千t                       | (+10%)                |
| PRTR物質 <sup>*3</sup> 取扱量 |                        | 2,369.9       | t                        | (+92%)                |
| OA用紙使用量                  |                        | 85,733        | 千枚                       | (+128%) <sup>*4</sup> |

投入

( )内に前年度比の増減率を示す。ただし、2010年度の報告値には日本無線(株)・長野日本無線(株)とその子会社は含まれていませんでしたが、今回の報告から対象としました。

<sup>\*1</sup> GJ(ギガジュール):エネルギーの単位で、1GJ=10<sup>9</sup>J=約24万キロカロリー。

<sup>\*2</sup> グリーン電力証書化した日清紡メカトロニクス(株)美合工機事業所の太陽光発電設備能力200kW分を除く。

<sup>\*3</sup> PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)物質:[特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律]に基づく制度の対象物質で、排出量・移動量の届出を義務付けられている物質。

<sup>\*4</sup> 日本無線(株)ではお客様の要望により納入設備の資料を、紙ベースで提出している。(1社で44,000千枚使用)

## アウトプット

事業プロセス

排出

水の循環的使用量  
1,238千m<sup>3</sup>(+1%)

物流

| 温室効果ガス             |                        | 520.8  | 千t-CO <sub>2</sub> | (+4%)  |
|--------------------|------------------------|--------|--------------------|--------|
| 内訳                 | エネルギー起源 <sup>*5</sup>  | 478.5  | 千t-CO <sub>2</sub> | (+6%)  |
|                    | 非エネルギー起源 <sup>*6</sup> | 42.3   | 千t-CO <sub>2</sub> | (-10%) |
| 大気への排出ガス           |                        |        |                    |        |
| 内訳                 | NOx                    | 177    | t                  | (+12%) |
|                    | SOx                    | 236    | t                  | (+34%) |
|                    | VOC <sup>*7</sup>      | 137    | t                  | (-19%) |
|                    | ばいじん                   | 27     | t                  | (-36%) |
| 水系への排出             |                        |        |                    |        |
| 内訳                 | 排水量                    | 29,336 | 千m <sup>3</sup>    | (-9%)  |
|                    | COD <sup>*8</sup>      | 503    | t                  | (+9%)  |
|                    | SS <sup>*9</sup>       | 179    | t                  | (-3%)  |
| PRTR物質             |                        |        |                    |        |
| 内訳                 | 排出量                    | 56.3   | t                  | (-6%)  |
|                    | 移動量                    | 146.3  | t                  | (-7%)  |
| 廃棄物総量              |                        | 44.5   | 千t                 | (0%)   |
| リサイクル廃棄物量          |                        | 38.0   | 千t                 | (-5%)  |
| 製品                 |                        | 235.5  | 千t                 | (-11%) |
| 輸送量 <sup>*10</sup> |                        | 86.2   | 百万トンキロ             | (-3%)  |

\*5 エネルギー起源温室効果ガス:燃料消費により発生した温室効果ガス。

\*6 非エネルギー起源温室効果ガス:製造工程や廃棄物からの発生等、燃料消費以外で発生した温室効果ガス。

\*7 VOC(Volatile Organic Compounds):トルエン等の揮発性有機化合物の排出量。

\*8 COD(Chemical Oxygen Demand):水質の汚濁状況を示す指標で、化学的酸素要求量または化学的酸素消費量。

\*9 SS(Suspended Solid):水中に浮遊する物質質量。

\*10 輸送量には、公海上の輸送を含まない。

## グループ全体で進める環境配慮

### 環境経営を推進する体制

日清紡グループは、環境カンパニーとして地球規模で社会の持続的発展に貢献するために、グループ全体に適用する環境経営推進規定を制定しています。

ISO14001認証を取得したグループの各拠点は、規格に従いPDCAサイクルを展開することで環境経営を推進しています。また、認証取得をしていない拠点も規格に準じたマネジメントシステムをそれぞれ構築し、活動しています。各グループ会社は毎年経営者のもとでマネジメントレビューを実施します。日清紡グループ全体の環境マネジメントレビューは、6月の日清紡ホールディングス(株)経営戦略会議で実施し、必要に応じて最高責任者である社長の指示を受ける体制になっています。

### グループ全体での取り組み強化

日清紡グループは3カ年ごとに策定する中期CSR目標の1分野として、環境目標を設定しています。環境目標は定性目標および数値目標からなり、その達成度は環境マネジメントレビューにおいて毎年評価しています。

### 環境監査、環境教育

ISO14001認証取得会社・事業所は、そのルールに従い監査・教育を実施しています。認証取得をしていない拠点も年1回以上の環境監査を実施し、環境マネジメントレビューで報告を行っています。また、環境部門の監査のみではなく、業務執行ラインから独立した監査室による臨時監査や特別監査を実施する体制を構築しています。

### 環境マネジメントシステムの状況

日清紡グループでは、環境憲章に「環境マネジメントシステムをグループ全体に広め、環境パフォーマンスの継続的改善を行います」という条文を掲げ、環境マネジメントシステムの推進に積極的に取り組んでいます。さらに、より事業に即した目標に挑むため、一部の中核会社では認証の統合を進めています。また、昨年日清紡グループの一員となったTMDグループでは、2013年中にすべての製造事業所がISO14001認証を取得することを目標に掲げて環境経営を展開しています。

#### ISO14001 認証登録組織

| 国内(28拠点)         |         |            |
|------------------|---------|------------|
| 日清紡ホールディングス(株)   |         | (東京都中央区)   |
| 日清紡テキスタイル(株)     | 大阪支社    | (大阪府大阪市)   |
| 日清紡テキスタイル(株)     | 藤枝事業所*  | (静岡県藤枝市)   |
| 日清紡テキスタイル(株)     | 美合事業所   | (愛知県岡崎市)   |
| 日清紡プレーキ(株)       | 館林事業所   | (群馬県邑楽郡)   |
| 日清紡プレーキ(株)       | 豊田事業所   | (愛知県豊田市)   |
| 日清紡ペーパー プロダクツ(株) | 島田事業所   | (静岡県島田市)   |
| 日清紡ペーパー プロダクツ(株) | 徳島事業所   | (徳島県徳島市)   |
| 日清紡ペーパー プロダクツ(株) | 富士事業所   | (静岡県富士市)   |
| 日清紡ペーパー プロダクツ(株) | 足立出張所   | (東京都足立区)   |
| 東海製紙工業(株)        |         | (静岡県富士市)   |
| 日清紡ポスタルケミカル(株)   |         | (東京都中央区)   |
| 日清紡メカトロニクス(株)    | 美合工機事業所 | (愛知県岡崎市)   |
| 日清紡メカトロニクス(株)    | 浜北精機事業所 | (静岡県浜松市)   |
| 日清紡精機広島(株)       |         | (広島県東広島市)  |
| 日清紡アルプステック(株)    |         | (静岡県浜松市)   |
| 日清紡ケミカル(株)       | 旭事業所    | (千葉県旭市)    |
| 日清紡ケミカル(株)       | 中央研究所   | (千葉県千葉市)   |
| 日清紡ケミカル(株)       | 千葉事業所   | (千葉県千葉市)   |
| (株)日新環境調査センター    |         | (東京都足立区)   |
| 日本無線(株)          |         | (東京都三鷹市)   |
| 新日本無線(株)         |         | (東京都中央区)   |
| 長野日本無線(株)        |         | (長野県長野市)   |
| 上田日本無線(株)        |         | (長野県上田市)   |
| 佐賀エレクトロニクス(株)    | 佐賀製作所   | (佐賀県神埼郡)   |
| (株)エヌ・ジェイ・アール福岡  |         | (福岡県福岡市)   |
| 日本無線硝子(株)        |         | (埼玉県ふじみ野市) |
| ジェイ・アール・シー特機(株)  |         | (神奈川県横浜市)  |

| 海外(9拠点)                                 |      |
|---|------|
| NISSHINBO AUTOMOTIVE MANUFACTURING INC. | (米国) |
| NISSHINBO SOMBOON AUTOMOTIVE CO., LTD.  | (タイ) |
| SAERON AUTOMOTIVE CORPORATION           | (韓国) |
| 賽龍(北京)汽車部件有限公司                          | (中国) |
| NISSHINBO MECHATRONICS (THAILAND) LTD.  | (タイ) |
| THAI NJR CO., LTD.                      | (タイ) |
| 日清紡メカトロニクス(上海)有限公司                      | (中国) |
| 深圳恩佳升科技有限公司                             | (中国) |
| 上海蝶矢時裝有限公司                              | (中国) |

| TMDグループ(11拠点)    |         |
|------------------|---------|
| Essen & Leverkus | (ドイツ)   |
| Hamm & Coswig    | (ドイツ)   |
| Hartlepool       | (英国)    |
| Manchester       | (英国)    |
| Creutzwald       | (フランス)  |
| Valencia         | (スペイン)  |
| Caransebes       | (ルーマニア) |
| Querétaro        | (メキシコ)  |
| Indaiatuba       | (ブラジル)  |
| Hangzhou         | (中国)    |
| Shijiazhuang     | (中国)    |

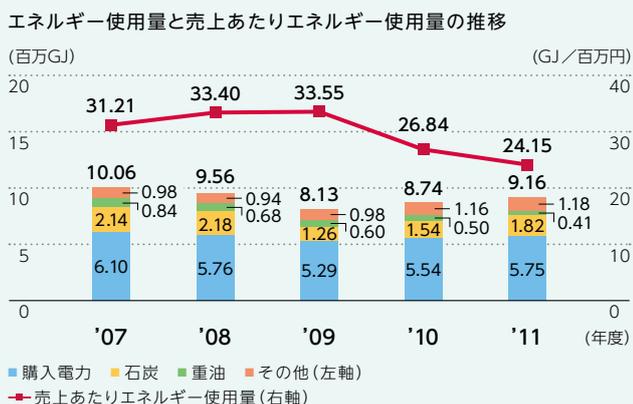
\* 日清紡テキスタイル(株)藤枝事業所は同社美合事業所に認証を統合し、2012年3月より美合事業所の関連事業所となっています。

## エネルギーの有効活用

### エネルギー使用量

日清紡グループのエネルギー使用量は、前年度比5%増加しました。売上あたりの使用エネルギーについては、10%削減しました。

エネルギー使用量の種類別の内訳では、購入電力がエネルギー使用量全体の63%を占めました。これに次いでインドネシアで使用している石炭が全体の20%を占めています。



日本無線(株)・長野日本無線(株)とその子会社が、日清紡グループに加わったことにより、エレクトロニクス事業のエネルギー使用量が増加しました。ブレーキ事業も、事業の拡大に伴い、エネルギー使用量が増加しました。



### エネルギーの有効利用

日清紡ブレーキ(株)館林事業所は、東京電力管内に所在しています。そのため、2011年度は、計画停電や電力制限に対応するため輪番制で操業しました。そうした状

況の中で、事業所をあげて省エネに取り組み、122件の省エネ案件を実施しました。

その結果、当初の電力削減目標460MWh/年に対し671MWh/年、8,500千円/年の削減ができました。特にブレーキライニング工場2号室混合空調のインバータ化は、従来の50%にあたる105MWh/年の削減効果がありました。



混合空調のインバータ化(館林事業所) ドレン回収ポンプ(徳島事業所)

日清紡ペーパープロダクツ(株)徳島事業所は、水に溶かした原料のパルプを乾燥させる際に大量の蒸気を使用するため、この工程での省エネが重要な課題でした。そこで、6年ほど前から蒸気を利用した残りの熱水(ドレン)の再利用に本格的に取り組んできました。従来、このドレンは捨てていましたが、回収ポンプを設置し、蒸発量の約8割をボイラー給水タンクに回収、純水を加えてボイラー給水として再利用するほか、ドレンの保有熱を有効活用しています。従来と比べて7.9%の省エネ効果があり、二酸化炭素排出量は年1,100トン削減できました。

海外事業所でも省エネの取り組みが進んでいます。新日本無線(株)の子会社であるTHAI NJR CO., LTD.は、電力削減を環境目標に掲げ、省電力蛍光灯への交換(36W→28W)や不必要な照明設備の撤去、設備不使用時の消灯の徹底に取り組んでいます。蛍光灯の交換は2008年度から取り組み、これまでに目標の約半分となる2,000本の交換を終え、年間で約134MWhの節電効果が上がっています。



# 低炭素社会の実現への取り組み

## 温室効果ガスの排出量

日清紡グループの温室効果ガス排出量は521千トン-CO<sub>2</sub>と前年度比4%増加しました。売上あたりでは、前年度比10%削減しました。

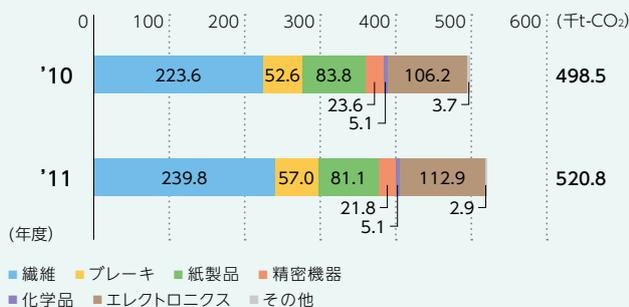
温室効果ガスのうち、エネルギー起源の温室効果ガスは6%増加しましたが、非エネルギー起源の温室効果ガスは、主な使用工程である新日本無線(株)におけるIC製造設備の稼働率低下の影響により、10%減少しました。

温室効果ガス排出量と売上あたり温室効果ガス排出量の推移



温室効果ガス排出量の事業別の内訳では、繊維事業が全体の46%を占めました。事業別エネルギー使用量の比率(39%)に比べ増えている理由は、海外での石炭使用比率が高いためです。

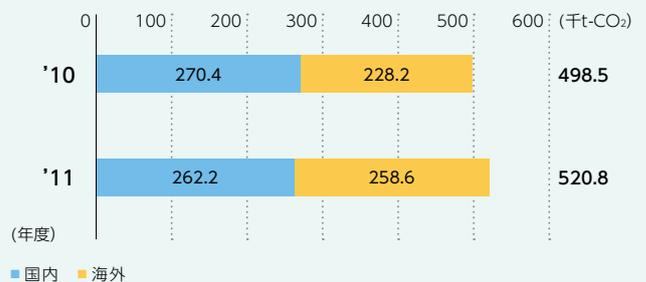
温室効果ガス排出量



## 国内／海外排出量

国内の温室効果ガスの占める排出割合は、2010年度より4%減少し50%となり、国内と海外がほぼ同じになりました。

国内／海外温室効果ガス排出量



### 注記

温室効果ガス排出量の集計にあたっては、環境省が発行している、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に準じた二酸化炭素排出換算係数を使用しています。ただし、電力は環境省自主参加型国内排出量取引制度の換算係数を使用しています。また、石炭は生産者より提供された係数を使用しています。

### 二酸化炭素排出量算出に用いた換算係数

|      |  |
|------|--|
| 電力   | 0.391 t-CO <sub>2</sub> /MWh             |
| 石炭   | 1.89 t-CO <sub>2</sub> /t                |
| A重油  | 2.710 t-CO <sub>2</sub> /KL              |
| ガソリン | 2.322 t-CO <sub>2</sub> /KL              |
| 軽油   | 2.585 t-CO <sub>2</sub> /KL              |
| LPガス | 2.999 t-CO <sub>2</sub> /千m <sup>3</sup> |

## 積極的な燃料転換

日清紡ペーパー プロダクツ(株) 徳島事業所では、2010年10月にボイラー燃料を重油からLNG(液化天然ガス)に転換し、さらに高効率なガスボイラーに設備更新をしました。

このほど、年間の実績が検証できました。燃料をLNG転換したことで原油換算年250キロリットル(7.5%)の省エネを達成し、ガスボイラーの更新により二酸化炭素排出量は年3,700トンと燃料転換前に比べ31%の削減実績となりました。

## グリーン電力活用商品「気包紙」

日清紡ペーパー プロダクツ(株)は、紙本来の風合いとパッケージに求められる基本機能を併せ持つ「気包紙」(「送り手の気持ちを包む紙」という意味を込めました)を販売開始しています。生産にあたっては、グリーン電力(バイオマス発電・太陽光発電などの自然エネルギー)を一部活用し、地球温暖化防止に貢献しています。



気包紙

## 事務所棟照明のLED化

上田日本無線(株)では、2011年6月に事務所棟の40W蛍光灯100本をLED蛍光管に交換する工事を実施しました。LED化により、照明電力使用量の削減、冷房への熱負荷低減による省電力、CO<sub>2</sub>削減を図ることができます。今後もLED化を積極的に推進していきます。



LED化工事。事務所棟100本を自前で工事した

## 主な取り組み ▶ 再生可能エネルギー

### 太陽光発電設備能力1メガワットを超える

日清紡メカトロニクス(株)では、太陽電池モジュールの後工程製造装置の開発や製造販売に注力するとともに、関連資材・材料の開発を加速しています。また、試作したモジュールをグループ内の事業所の屋根に設置し、耐久試験を実施しながら再生可能エネルギーの活用を図っています。設置事業所は、美合工機事業所(愛知県)から島田事業所(静岡県)、千葉事業所(千葉県)、館林事業所(群馬県)へと拡がり、2012年3月末現在で合計設備能力は1,130kWとなっています。なお、美合工機事業所の設備能力のうち200kW分の発電による環境価値はグリーン電力証書化し、第三者に譲渡しています。

### 太陽光発電設備

日清紡メカトロニクス(株)  
美合工機事業所

出力 ▶ 250kW+180 kW  
設置 ▶ 2010年2月  
増設 ▶ 2011年12月



日清紡ペーパー プロダクツ(株)  
島田事業所

出力 ▶ 250kW  
設置 ▶ 2010年9月



日清紡ケミカル(株)  
千葉事業所

出力 ▶ 150kW  
設置 ▶ 2011年2月



日清紡プレーキ(株)  
館林事業所

出力 ▶ 300kW  
設置 ▶ 2011年9月



# 循環型社会を目指す取り組み

## 廃棄物排出量

日清紡グループの廃棄物発生量は、前年度比0.5%減少しました。売上あたり廃棄物発生量は、15%減少しました。一方、リサイクル率は、震災の影響で5%低下しました。

廃棄物発生量と売上あたり廃棄物発生量の推移



リサイクル量とリサイクル率の推移



事業別廃棄物発生量とリサイクル率の推移



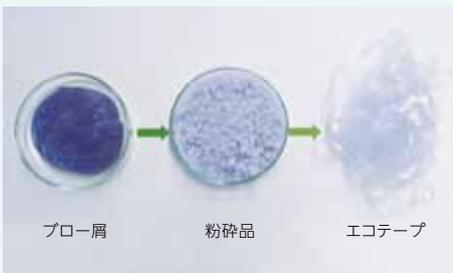
グループ全体でゼロエミッション(リサイクル率99%以上)活動を展開しており、2011年度は下記の10拠点で達成しました。

- (有) ブラジル日清紡
- PT. ナイガイシャツインドネシア
- 日清紡ブレーキ(株) 豊田事業所
- 日清紡ペーパー プロダクツ(株) 富士事業所
- 日清紡ペーパー プロダクツ(株) 足立出張所
- 日本無線(株)
- 武蔵野電機(株)
- 佐賀エレクトロニクス(株)
- (株) エヌ・ジェイ・アール福岡
- 上田日本無線(株)

ブレーキ事業では、震災等の影響によりリサイクル率が18%低下しました。他の事業と比べると、リサイクル率は低く、今後中期目標を設定して改善を進めていきます。

### 主な取り組み ▶ エコテープの販売を開始

日清紡ケミカル(株)では、熱可塑性ポリウレタン製のテープを製造・販売しています。2011年度には、省資源への取り組みとして、テープの成型時にロスとして発生するブロー屑を回収、粉碎し、原料の一部として再利用した「エコテープ」の販売を開始しました。ブロー屑の発生量はわずかな量ですが、今まで廃棄されていた樹脂を再利用することで、限られた石油資源の有効活用に取り組んでいます。



ブロー屑からエコテープへ

### 主な取り組み ▶ 石炭灰のリサイクル

PT.日清紡インドネシアでは、2004年に石炭を燃料とする石炭ボイラーを導入しました。従来は、ボイラーで発生する石炭灰の処理を単に廃棄物として処理業者に委託していましたが、2010年10月から、コンクリートブロックの原材料として全量をリサイクル業者で再利用するように変更しました。2011年は約4,200トンの石炭灰をリサイクルしました。



石炭灰をコンクリートブロックに

### 水資源の使用量

日清紡グループは、水資源の効率的利用を進め、2011年度の水の使用量は、前年度比9%減少しました。

一方、水のリサイクル量については、前年度比1%増加しました。

#### 水の使用量の推移

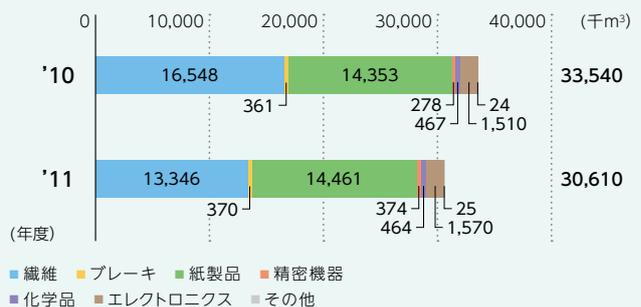


#### 水のリサイクル量の推移



事業別の水使用量では、紙製品事業は増加傾向で全体の47%を占めました。繊維事業は減少傾向にありますが、全体の44%を占めています。この2つの事業で全体の90%以上の水資源を使っています。

#### 事業別水資源使用量の推移



# 健康と地球環境を守る取り組み

## 化学物質の取扱量

日清紡グループのPRTR対象物質(改正前)取扱量は、ブレーキ事業を中心に原材料の使用量が増えたことにより、1,754トンと前年度比97%増加しました。

改正により2010年度新規追加された化学物質の取扱量は、616トンになりました。主要なものは、ウレタンの原料であるメチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアネートおよび燃料(A重油)に含まれるメチルナフタレンです。

化学物質の取扱量の推移



## 化学物質の排出量

大気や排水へ排出されたPRTR化学物質量は、56トンと前年度比6%減少しました。上記のように取扱量は増えていますが、原料としての使用が主であり排出量は減少しました。改正追加物質の中で排出される主な化学物質は燃料(A重油)に含まれるメチルナフタレンです。

化学物質の排出量の推移



物質別に排出量を見ると、ジクロロメタンが最も多く52%を排出しています。今後、ジクロロメタンの代替の検討を進めていきます。

化学物質別の排出内訳

| 物質別                          | 排出量 (t) | 全体に占める比率 (%) |
|------------------------------|---------|--------------|
| ジクロロメタン                      | 29.36   | 52.1         |
| トルエン                         | 8.80    | 15.6         |
| キシレン                         | 6.85    | 12.2         |
| ポリオキシエチレンアルキルエーテル            | 5.00    | 8.9          |
| エチルベンゼン                      | 1.70    | 3.0          |
| アンチモン                        | 1.07    | 1.9          |
| ヘキサメチレンテトラミン                 | 0.81    | 1.4          |
| テトラクロロエチレン                   | 0.62    | 1.1          |
| メチルナフタレン                     | 0.50    | 0.9          |
| メチレンビス(4,1-シクロヘキシレン)=イソシアネート | 0.38    | 0.7          |
| その他                          | 1.24    | 2.2          |

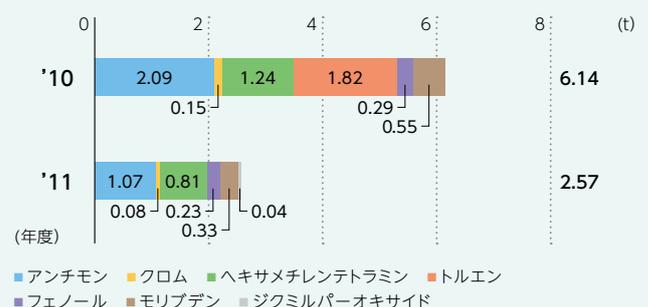
事業別の内訳では、ジクロロメタンを排出している精密機器事業の比率が突出しています。

事業別排出量の推移



ブレーキ事業においては、排出量を58%減少させました。特に、トルエンはPRTRの届出対象量(1トン)以下に減少させました。

ブレーキ事業での化学物質別の排出量の推移



## 排水の浄化

日清紡グループでは、製造工程から排出される水を浄化し自然に戻しています。売上あたりのSS(水中の浮遊物質)排出量は、前年度比17%削減しました。売上あたりのCOD排出量は前年度比7%削減しました。

売上あたりSSおよびCOD排出量の推移



## 大気への排出

日清紡グループの売上あたりのSOx(硫黄酸化物)排出量は、前年度比15%増加しました。インドネシアのPT.ニカワテキスタイルインダストリーにおける生産増に伴う石炭使用量増加が大きな要因でした。売上あたりのNOx(窒素酸化物)排出量は4%、売上あたりのVOC排出量は30%減少しました。

売上あたりSOx、NOx、VOC 排出量の推移



## 化学物質管理

日清紡グループ各社は自社で取り扱う化学物質はもとより、製品に含まれる化学物質に関しても、事業ごとに基準を定め適正管理を実施しています。

### 主な取り組み ▶ 適正管理の強化

日清紡ケミカル(株)徳島事業所では、化学物質や有機溶剤など多くの薬品を取り扱うため、日常の管理に加え、緊急事態を想定した取り組みを強化しています。

設備は常に適切な状態を保てるよう、日常の管理を徹底しています。危険性の高い化学薬品などは施錠して保管し、鍵の管理と使用数量の管理を厳格に行っています。

従来から緊急事態への対応訓練を実施していますが、2011年度は緊急時マニュアルの津波警報時対応などを見直し、全従業員へ周知徹底のうえ訓練を実施しました。

また、災害時の拡散防止・回収等に必要な緊急用資材・機材を整備し、その保管状況の見える化を実施しました。あつてはならない万が一の事態にも、素早く対応できるように日頃から備えています。



緊急事態対応訓練

### 主な取り組み ▶ 規制化学物質と使用薬剤のMSDS\*等のデータベース化

日清デニム(株)は、法規制はもとより、お客さまの化学物質使用基準を遵守するため、約1,300種類の規制化学物質と約130種類の使用薬剤のMSDS、含有化学物質をデータベース化しました。規制化学物質のチェックや使用薬剤の内容確認が短時間で簡単にできるようになり業務の効率化やお客さま満足につながっています。

\* Material Safety Data Sheet (化学物質安全性データシート)



データベース画面(右)と収集した元データのファイル

## 多様な生物との共存を図る

日清紡ホールディングス(株)は、経済団体、事業者、N GO、自治体などで構成する生物多様性民間参画パートナーシップに参加し、種・生態系・遺伝子の保護活動に取り組んでいます。

### 貴重種エビネの移植

#### 日清紡ホールディングス(株)不動産事業部

愛知県岡崎市にある工場跡地の再開発事業に際して、敷地内に広く生息する動植物の現況調査を実施しました。その結果、将来的に絶滅する危険性がある種とされている植物のエビネが自生していることを確認しました。エビネはランの一種であり、過去の栽培ブームで乱獲され、大きく数を減らしました。貴重な種である自生のエビネを保護するため、生育に適した土地へ移植する活動を行いました。



エビネ



エビネ移植作業

### アドプトプログラム吉野川への参加

#### 日清紡グループ徳島事業所

アドプトとは養子縁組のこと。吉野川の土手や河川敷を子どもに見立て、流域の企業や住民グループがその一定区間との間に養子縁組するものです。日清紡ホールディングス(株)・日清紡テキスタイル(株)・日清紡ペーパー



プロダクツ(株)・日清紡ケミカル(株)の徳島事業所は、隣接する吉野川水系今切川との養子縁組を「吉野川交流推進会議」へ届け出ています。2011年度は6、10、3月と年3回のボランティア清掃を実施し、美しい吉野川の環境美化、生物多様性の保護に協力しています。



2012年3月の活動の様子

### FSC\* 認証製品

日清紡ペーパー プロダクツ(株)では、生物多様性を保護するため、FSC 認証製品を環境配慮型重点製品と位置付け、拡充を図っています。

FSC 認証製品とは、「違法伐採されていない」・「太陽の光が良く通るように手入れが行き届いている」・「希少動植物が保護されている」などの観点から、FSCが「適切に管理されている」と認めた森林にて生産される原料を使用した製品のことで、現在、高級印刷用ファインペーパー「ヴァンヌーボ®F-FS」および表面の平滑性が高い「ヴァンヌーボ®スムーズ-FS」を販売しています。今後もFSC 認証製品の品揃えを増やしていきます。

\* FSC(Forest Stewardship Council):森林管理協議会。世界中の森林を対象とし、環境保全の観点から適切で社会的な利益にかなない、経済的にも持続可能な森林管理を推進することを目的に1993年に設立された非営利の国際会員制組織。



FSC 認証書



「ヴァンヌーボ®」シリーズ

## 効率的な物流に向けて

日清紡グループからの貨物の輸送量は、前年度比3%減少しました。売上あたりでは17%減少しました。

輸送量と売上あたり輸送量の推移



事業別では、紙製品事業が全体の輸送量の47%を占めています。トイレトペーパーなどかさばる製品が多く、輸送のためのエネルギー使用量や温室効果ガスの排出量が大きくなります。日清紡ペーパー プロダクツ(株)は特定荷主\*に指定されており、輸送業者さまとともに省エネに努めています。

\* 特定荷主:「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づくもので、日本国内の輸送量が年間30百万トンキロ以上となる荷主のこと。

事業別の輸送量の推移



### ご報告 美合事業所 薬液流出への対応

2012年2月3日早朝、日清紡テキスタイル(株)美合事業所(愛知県岡崎市)において、マイナス7℃の冷え込みのため薬液タンクのバルブが凍結、破損し、排水処理用凝固剤の硫酸アルミニウムが流出する事故が発生しました。出勤した従業員が事故を発見し、即座に元バルブを閉鎖、土嚢による流出防止措置を実施しましたが、約7キロリットルの薬液が事業所内を流れる六斗目川に流出しました。これにより川の一部でペーハーが低下し、約50匹の魚がへい死しました。凍結防止策、排水異常の監視システムの改善、薬液の外部流出防止壁の増強、環境影響の少ない薬液への変更などの予防措置を完了しました。今後も再発防止に努めていきます。



破損したバルブ



## 活動をさまざまな皆さまとともに

### 古紙リサイクル工場の見学受け入れ

東海製紙工業(株)は、古紙のみを原料とする家庭紙の生産により循環型社会の形成に貢献しています。

2010年度からは、それまでは焼却処理されていた難離解古紙(プラスチック等が混ざった古紙等)を使用するため設備を強化し、リサイクルできる原料の幅が広がりました。

また、多くの方にリサイクルの重要性を理解して頂くため、工場見学の受け入れや、環境教育のお手伝いをしています。2011年度は、日本国際協力センターを通じたカンボジア、ミャンマー、ベトナム等アジア各国からの見学を含め、14団体の見学がありました。



工場見学・古紙リサイクル工程の様子

### 「1社1橋1河川」運動

セロンオートモーティブコーポレーション(韓国)は、毎月第4金曜日の朝8時から30分間市内の清掃運動をしています。この活動は、5年前市役所主催の「1社1橋1河川」運動に協賛してスタートしたものです。2011年は延べ83名が運動に参加しました。



「掃いて、手入れしたクリーン天安、誇らしい私たちの顔 1社1橋1河川浄化運動 セロンオートモーティブ」と書かれた横断幕を手にする参加者

### 近隣への飲料水提供 日清紡インドネシア

日清紡テキスタイル(株)の子会社PT.日清紡インドネシアは1998年の設立当初より、社会貢献活動の一環として、近隣住民へ毎月約1万トンの飲料水を無償で提供しています。

会社敷地内の複数の井戸を用いて地下50~120mから汲み上げた水を浄化処理したのち、専用ポンプで多数のパイプラインを通して、24時間絶え間なく敷地外の各所に設けた貯水槽へ送水しています。

工場付近には水道が通っていないため、住民の皆さんは貯水槽の水を飲料水ほか、貴重な生活用水としても活用しています。現在、約430世帯が、この水を利用しています。

今後も引き続き、飲料水の提供を継続していきます。



送水配管(工場外)  
配管は工場外に点在する貯水槽に接続している



貯水槽  
貯水槽は周辺の人々の生活用水として利用されている

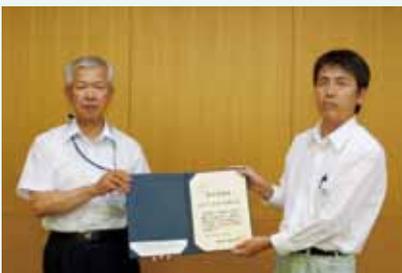
## 企業間の情報交換会

日清紡ブレーキ(株)豊田事業所がある豊田市は、2008年より公害防止協定の内容を見直し、「環境の保全を推進する協定」としました。現在、35社と同協定を結び、外部講師による講演や工場見学会や事例発表会を実施し、環境情報の共有化と環境技術の底上げを目指して活動しています。

豊田事業所は、2010年6月の協定締結後、排水の定期測定・報告や省エネ事例の情報提供を行うことにより、自事業所の環境保全のみならず地域の環境保全活動にも貢献しています。



協議会の様子



協定締結式(豊田市環境部部長岩田信男さんと豊田総務課の柴山課長)

## テレビシリーズ「恋する地球ものがたり」の提供

「自然のチカラ×ヒト」をテーマとしたテレビ番組を2011年10月3日より日清紡グループの提供でスタートしました。番組名は「恋する地球ものがたり」(毎週月曜日21:54~22:00日本テレビ放送)。毎回、自然の不思議を物語仕立てで解き明かします。

オープニングに登場する1冊の絵本。ページをめくると1人の少女が佇んでいます。自然について不思議に思うことを森の長老が少女と対話しながら答えを探してくれます。森の長老の声は、俳優の國村隼さん。染みわたるような優しく厳かな声が印象的です。ファンタジーの世界のような美しい映像で、癒し効果と同時に知的好奇心も満たしてくれることでしょう。番組は関東ローカルですが、オンエア後には日本テレビのウェブサイトでご覧いただけます。



## 環境保全コスト

日清紡グループの環境投資額は、1,208百万円となり、前年度比47%増加しました。

環境投資の主な内容は、公害防止設備および太陽光発電設備投資と将来の環境ビジネスに向けた研究開発投資です。

日清紡グループの環境保全費用は、全体で2,925百万円となり、前年度比34%増加しました。日本無線(株)と長野日本無線(株)の影響を除くと、前年度比7%の増加となりました。

## 環境保全効果

日清紡グループの環境保全活動により温室効果ガス排出量は、重油からLNGガスや都市ガスへの燃料転換が大きく寄与したことにより11,407トン削減されました。

## 環境保全対策に伴う収入

日清紡グループの環境保全対策による経済効果(収益)額は、616百万円と前年度比39%増加しました。

## 2011年度 環境会計集計表

| 分類  | 環境保全コスト        |              |                |              |      |
|---|----------------|--------------|----------------|--------------|------|
|   | 投資額(百万円)       | 前年度比増減率(%)   | 費用額(百万円)       | 前年度比増減率(%)   |      |
| 事業エリア内  | 公害防止コスト        | 310.8        | +224.2         | 392.6        | +9.3 |
|   | 地球環境保全コスト      | 274.1        | -34.6          | 138.4        | +3.7 |
|   | 資源循環コスト        | 11.4         | +78.2          | 346.7        | +5.4 |
| 上・下流コスト   | 0.0            | -            | 45.4           | -19.5        |      |
| 管理活動コスト   | 2.0            | +167.0       | 648.1          | +54.7        |      |
| 研究開発コスト   | 609.7          | +104.2       | 1,272.5        | +91.2        |      |
| 社会活動コスト   | 0.0            | -            | 5.2            | -17.8        |      |
| 環境損傷対応コスト                                       | 0.0            | -            | 33.3           | -42.3        |      |
| その他コスト  | 0.0            | -            | 42.3           | -71.6        |      |
| <b>合計</b>                                       | <b>1,208.0</b> | <b>+47.2</b> | <b>2,924.6</b> | <b>+34.4</b> |      |
| 参考:日本無線(株)・長野日本無線(株)とその子会社を除く合計(2010年度と同じ基準で集計) | 1,175.4        | +43.2        | 2,315.9        | +6.5         |      |

※「-」:前年度額がゼロであったことを示しています。

| 分類  | 環境保全効果                        |              | 環境保全対策に伴う収入  |              |       |
|---|-------------------------------|--------------|--------------|--------------|-------|
|   | 温室効果ガス削減量(t-CO <sub>2</sub> ) | 前年度比増減率(%)   | 効果額(百万円)     | 前年度比増減率(%)   |       |
| 事業エリア内  | 公害防止効果                        | 261          | -            | 8.3          | -     |
|   | 地球環境保全効果                      | 11,144       | +50.8        | 58.3         | +93.9 |
|   | 資源循環効果                        | 3            | -13.3        | 549.4        | +33.2 |
| 上・下流効果  | 0                             | -            | 0            | -            |       |
| 管理活動効果  | 0                             | -            | 0.1          | +475.0       |       |
| 研究開発効果  | 0                             | -            | 0            | -            |       |
| 社会活動効果  | 0                             | -            | 0            | -            |       |
| 環境損傷対応効果  | 0                             | -            | 0            | -            |       |
| その他効果   | 0                             | -            | 0            | -            |       |
| <b>合計</b>                                       | <b>11,407</b>                 | <b>+54.3</b> | <b>616.0</b> | <b>+39.2</b> |       |
| 参考:日本無線(株)・長野日本無線(株)とその子会社を除く合計(2010年度と同じ基準で集計) | 9,968                         | +34.8        | 586.7        | +32.6        |       |

# 技術を駆使し事業全体で進むCSRのさらなる進化に期待しています。



CSRコンサルタント

まいとう まき  
斎藤 模

代表

ASU International LLC

**プロフィール** 大学卒業後、広告代理店電通入社。米国コロンビア大学国際関係大学院にて修士号取得。現在は、ASU International LLC代表・CSRコンサルタントとして日米で活躍中。SBI大学院客員准教授、東京大学「人間の安全保障フォーラム」理事、目黒区環境審議会専門委員会委員、著書に『世界をよくする簡単な100の方法』、『社会起業家』、『ソーシャルビジネス入門』などがある。

日清紡は、時代の変化に柔軟に対応し、新しいトレンドや文化を取り入れるのが実にうまい企業である。もともと綿を中心とする繊維製品の原料加工やその製造技術を活かしながら、さまざまな新事業に発展させた歴史がある。綿紡績技術をベースに、ノーアイロンの形態安定シャツや高付加価値な紙製品を進化させただけでなく、戦時中にはブレーキ事業をスタートさせたという。また、軍用機の尾翼を作っていた技術をもとに、戦後、工作機械の製造を始め、現在の太陽パネル製造装置へと繋がっている。さらに、燃料電池、バイオプラスチックなども手掛けている。

第三者意見を書くために、役員と担当者のインタビューに加え、実際に群馬のブレーキ工場を見学した。そこで行われていたのはさまざまな環境イノベーションへの取り組みであった。太陽電池を利用したメガソーラー発電や重油からLNGへのシフトをはじめ、混合空調による電力削減のインバーター化や、銅の含有量を削減した環境にやさしい摩擦材、そして汚水を汚泥化して有効活用するリサイクルへの取り組みなどであった。環境のために、知恵を絞り、努力を重ねてきたことを知るにつれ、同社が目標のひとつに「環境カンパニー」を掲げる理由を実感した。

同社はISO14001を国内外で取得しており、今、その統合化に向けて準備しているという。7つの異なる事業を、環境マネジメントという統一コンセプトに向かわせていくところに、同社の先進性や積極性を感じる。国際SRIインデックスであるFTSE4Goodにも長年採用されているのもうなずける。また、「植物工場」への期待も大きい。というのも、それぞれの事業の強みやノウハウを今後、どのように企業全体のアドバンテージにしていくかという点において、この工場の役割は極めて大きいからだ。

さて、ここから、今後のさらなるCSR活動の発展に向けて、いくつか質問や課題を列挙したい。

1. 日清紡グループの技術によって、どのような理想の社会を描けるか？
2. 植物工場だけでなく、それぞれの事業においても、他事業とのシナジーをどのように創出できるか？ 他の事業の強みをどのように共有知として効率よく活用できるか？
3. 環境負荷削減に向けたさまざまな取り組みを行っているが、長期目標は何か？ その中で、今、どの程度達成しているのか？
4. 環境や社会問題解決の「プロセス」をステークホルダーにどのように見せるのか？ また、どのようにコミュニケーションするのか？
5. TOB、買収、海外進出によってますます多様化が進む中、事業内容や文化の多様性を企業総体としての強みにどう転化していくか？

日清紡はTechnology for Environmental Responsibility (TER)のリーダーである。これらの課題に積極的に対応していくことで、技術を駆使したCSR活動をさらに推し進めていってほしい。

2012年7月